

SOCIUS

No.14

2019

[ソシアス]

仁愛女子短期大学 総合学務センター 入学・地域支援課

1. はじめに	
・ 持続的な大学運営とCSR (“College” Social Responsibility) ……	内山 秀樹 2
2. 公開講座	
・ Microsoft Excel講座・Microsoft Word講座 ……	平塚紘一郎 3
・ 仁愛食育講座 ……	森 恵見 4
・ 幼教ホームカミングデー ……	幼児教育学科 6
・ 未経験者集まれ!! 仁短 CAMP COLLEGE VOL.1 ……	山田 浩隆 7
・ 人生は楽しいもの? 苦しいもの? -お釈迦様のことばに学ぶ- ……	香月 拓 8
・ 親子のための虹色コンサート ～ジンタン、タンタタン♪～ ……	木下 由香 10
3. 多文化体験プログラム	
・ えいごであそぼう! 〈森田、永平寺、AOSSA、仁短祭〉 ……	野本 尚美 11
4. 自治体等との連携事業(森田地区・福井市・坂井市・永平寺町)	
・ 森田地区まちづくり協議会と仁愛女子短期大学との連携事業報告 ……	入学・地域支援課 13
・ プロジェクションマッピングにチャレンジ! ～もりのわフェスタ2019～ ……	内山 秀樹 14
・ ふく ² ベジ・ファースト応援事業 (食育推進事業) ……	牧野みゆき 15
・ 福井市との新幹線CM作成プロジェクト ……	澤崎 敏文 16
・ 令和元年度 保育研究合同発表会 ……	乙部 貴幸 17
・ 坂井市保育研究会 保育園への出前授業 ……	重村 幹夫 18
・ 令和元年度 永平寺町と仁愛女子短期大学との連携事業報告 ……	入学・地域支援課 19
5. 図書館企画展示の活動報告 ……	竹下 真弓 20
6. 福井市男女共同参画・子ども家庭センター	
・ 福井市子ども家庭支援センター 子育て支援室・相談室 ……	野路 昌美 22
7. 学生の社会的活動報告	
・ 森田イベントでの活動 ……	25
・ サイバー防犯啓発グループPsybernicの活動 ……	25
・ 台湾研修 ……	26
・ 木のおもちゃ博 ……	26
・ 練り物商品を使用したレシピ考案について ……	27
・ 栄養研究サークル活動報告 ……	28
・ 親子向けイベント「はらぺこあおむしらんど」 ……	28
・ じんあいこどものくに ……	29
8. 学生のボランティア活動報告	
・ 英語サークル ……	30
・ パソコンボランティアサークル ……	30
・ 折り紙サークル ……	31
9. 令和元年度 活動報告	
・ 管理栄養士国家試験対策リカレント講座 ……	32
・ 公開講座開講一覧 ……	33
・ 教員の地域活動一覧 ……	36
・ 教員免許状更新講習 ……	38

※敬称略

はじめに

持続的な大学運営とCSR (“College” Social Responsibility)

総合学務センター長 内山 秀樹

本学がはじめて地域や自治体等との連携協定を結んだのは、2010年の地元森田地区との連携協定でした。当時、森田地区は2007年にまちづくり将来ビジョンを策定し、具体的な取り組みを進める段階に入っていました。その中で、森田地区のリーダーの方から「まちづくりを確実に進めるために、仁短との継続的な関係を構築したい。そのためにはどうしたら良いか。」とのご相談をいただいたことから始まりました。本学としても地域に根ざした高等教育機関の社会貢献の一環として、また、教職員の研究・活動フィールドとして、学生が地域社会に胸を借りて学ぶフィールドとして期待したいということで協定締結に至りました。以後、福井市、永平寺町との包括的連携協定を締結していきました。これらの取り組みはまさに大学のCSRそのものです。ここでは“Corporate”を“College”に置き換えて考察したいと思います。

協定締結以前にも様々な形で連携してきた実績は多々ありますが、少子化、4大志向等、厳しい環境下にある本学をはじめとする短大の生き残りのためにどうCSRに取り組むべきか考える時期にきていると思います。このテーマについて示唆に富んだわかりやすいコメントがありますので、引用させていただき、皆さんと共有することで今後の本学の教育・研究活動の活性化と地域からの信頼性の向上につなげたいと思います。

(以下引用)

–地域社会と連携してCSRの成果を得るには何が必要なのでしょうか?それは、学生の活動や大学が立地する地域の取り組みをしっかりと把握すること。そして大学のステークホルダーである「学生」や「地域の住民」が大学を支持してくれるような仕掛けとシステムの構築をすることです。ここを目指して、

大学は努力しなくてははいけません。地域に誇れる大学。地域全体で支えていこうと思われる大学。その先に永続的な大学経営が保障されるというのが、大学にとってのCSRなのです。

地域の取り組みを把握する、また地域からの支持を得るような取り組みをするのに、まず必要なことはなんでしょうか。それは大学が取り組んでいることが、きちんとステークホルダーに伝わる仕組みを作ったり、大学を評価してもらう啓蒙・啓発を行なう取り組みなど、さまざまな仕組みを整えていくことです。

さらに、大学の中にある「資源」と地域が持つ「学外でのニーズ」を結びつけて、それをコーディネートする仕掛けをつくることは大学の役割です。大学と地域の相互で作るCSRのシステムは、大学経営が長期的に安定したものになると同時に、地域が活気づき、豊かな地域社会をつくることなのです。 –

このように、持続可能な大学運営のためには、

- ・ステークホルダーに支持され
 - ・誇っていただける大学であり続ける
- ことが肝要であり、そのために必要なことは、
- ・大学の取り組みをきちんと伝える
 - ・評価していただけるような情報発信を行う
 - ・大学の資源と地域ニーズをコーディネートする
- 仕組みを整えることと結んでいます。

厳しい環境下、私たちは福井で唯一の女子高等教育機関として将来にわたって支持され、地域社会に貢献するために、これらの点について常に自問自答しながら教育・研究活動に取り組んでいく所存ですので、皆様のご理解とご支援をお願いします。

*引用：東京修復保存センター http://www.trcc.jp/2nd_univ_CSR.html

公開講座

Microsoft Excel講座・Microsoft Word講座

生活科学学科 生活情報専攻 准教授 平塚 紘一郎

(1) 活動方針

情報メディア教育支援室では、夏期休暇期間中に福井ライフ・アカデミー様と連携したコンピュータに関する講座を開催しました。本学の学生や教職員、一般の方を対象とし、コンピュータ等の基本操作を学ぶ講座です。普段の生活や仕事で活かしてもらうことが目的です。

昨年度と同様にMicrosoft Excel講座とMicrosoft Word講座を行いました。これらのソフトウェアは仕事やプライベートでよく使われており、Excelは表計算、Wordは文書作成を行うためのものです。一昨年度に要望があり、昨年度からはExcel講座に加えてWord講座を行うようにしました。

(2) 取り組みと成果

講座は2回とも本学のC108パソコン演習室で行いました。講座の際には本学のパソコンを参加者の方に使用していただきました。中間モニタを設置しているため、参加者の方々が操作するパソコンの画面の隣に講師の操作するパソコンの画面が写し出され、参照できるようになっています。

Excel講座は2019年9月1日(日)の9:00～16:00に行い、参加者は26名でした(一般の方のみ)。この講座では、Excelで簡単な



図1：9月1日(日) Excel講座の様子

表を作り、グラフを作成、書式等を変更できるようになることを目標としました。セルへのデータの入力方法、数式・関数の入力方法、罫線や塗り潰しといった書式の変更方法、グラフの書き方といった、Excelの基本操作の一連の流れについて取り扱い、機能の説明をしながら参加者の方にもExcelの操作を行ってもらいました。昨年

度、少し進み方が速いというご意見も頂いていたため、講座の時間を1時間長くしてゆっくと進めました。

Word講座は2019年9月8日(日)の9:00～16:00に行い、参加者は24名でした(一般の方のみ)。Word講座では、Wordで文、表、画像などを



図2：9月8日(日) Word講座の様子

組み合わせた簡単な文章が作成できるようになることを目標としました。文字の入力や削除、移動やコピーといった基本的な内容から始まり、書式設定、箇条書き、表(Excelとの連携を含む)、画像、SmartArtなどについて取り扱いました。また、やや応用的な内容として、文章の開始、終了位置などを変更するためのルーラーや、文章を印刷する際に、宛先や日付などの一部の項目をExcel等の表から挿入する差し込み印刷についても簡単に触れました。図形についても取り扱っておきなかったのですが、時間の関係上割愛しました。

(3) まとめ

途中1時間毎に休憩を入れながら進行しましたが、それぞれ6時間弱という長い講座になりました。長時間の講座にもかかわらず、今年度も参加者の方々には熱心に講座を受講していただきました。

ExcelやWordは機能が多く、6時間弱という時間があっても応用的な内容を取り扱うことはできませんでした。しかし、基本操作については学んでいただけたと思いますので、今後の仕事やプライベートなどに役立てていただきたいと思います。

公開講座 仁愛食育講座

生活科学学科 食物栄養専攻 講師 森 恵見

今年で5年目の“仁愛食育講座”です。今回の食育講座は、子どもたちが楽しめるアイシングクッキー、練り切り、デコレーションケーキの講座を行いました。

● 初めてのアイシングクッキー ●

日時：令和元年9月14日（土） 13:00～15:00

場所：仁愛女子短期大学 調理室

参加者：19名

アイシングクッキーとは、クッキーの上に卵白と粉砂糖を混ぜて絵を描いたものです。絵を描くために、クリームにそれぞれ好きな色を着色をして描きます。クッキーも、一般的なサクッホロツのクッキーとは違い、硬くて崩れにくい平らなクッキーを使用します。



作ってみたいけど、難しそうないメージがあるアイシングクッキーですが、意外に簡単です。開催時期が9月だったので、お月見をイメージして、うさぎや星、丸などのクッキーを用意しました。クッキーの上に絵を描くように、オリジナルのアイシングクッキーを作ってもらいました。



今回は初めての方が多かったので、クッキーやクリームは全てこちらで準備をしました。用意しておいた白・黒・ピンク・水色・黄色の五色を使って、オリジナルのクッキーを作ってもらいました。

参加した親子・お友達同士、一言もしゃべらず真剣に黙々とクリームを絞っていました。かわいらしいデザインが完成し、全てのクッキーが完成した頃には、『疲れたけど、楽しかったー!』という声があがっていました。



表面を乾かしている待ち時間を利用し、クッキーレッスンを行いました。材料を少し変えるだけで色々な食感のクッキーが出来ること、作り方を少し工夫するだけで、ボコボコのクッキーが真っ平らなクッキーになることも勉強してもらいました。たかがクッキーですが、奥が深いクッキーです。楽しいだけでなく、子どもたちにクッキー作りを通して、“なるほど!”と興味・関心を持っていただいた時間でした。

●初めての練り切り講座●

日 時：令和元年10月5日（土）10：00～12：00

場 所：仁愛女子短期大学 調理室

参加者：20名

練り切りアート認定講師 森忠栄美先生に講師をお願いし、可愛くデコレーションの練り切りを教えてくださいました。

こちら、初めて練り切りを体験する方ばかりだったので、練り切りの材料は全てこちらで準備をし、工作のように楽しんでいただきました。実際に和菓子職人が使用する三角棒を使用することで、チョッピリ職人気分です。丁寧に一つずつ教えていただき、こだわる子は時間をかけながら、黙々と作っていました。



参加者からは、『こんなに丁寧に教えていただけて楽しんで出来る講座、また来年もお願いします』と言うお声もいただきました。

●親子でデコレーションケーキづくり●

日 時：令和元年12月22日（日）10：00～12：00

場 所：仁愛女子短期大学 調理室

参加者：66名（26組）

おうちで一緒に、ケーキを作りたいけど、準備が・・・と思っているお父さんお母さんのために、子供用の包丁など短大の広い調理室を使って、親子でケーキをデコレーションしてもらいました。フルーツなど飾り付けをして世界で一つだけのクリスマスケーキを作りました。

ケーキの作り方だけでなく、スーパーに売っている安価な生クリームと高価な生クリームの違いや、スポンジケーキを作る際のコツ、生クリームの泡立て方など、なぜ？という疑問を解決しながら、説明しました。

保護者の方からは、『家ではなかなかできないから、こういう機会があるとありがたいです』『生クリームの話は、大変勉強になりました』というお声をいただき、こども達からも『楽しかった!』『ママと一緒にケーキが作れて良かったです』という感想がありました。



今年度の食育講座に参加していただいた皆さん、ありがとうございました。この食育講座は、地域に貢献できる講座でもあり、お手伝いの学生達の学びの場でもあります。令和2年も、楽しく・美味しく・ちょっと学びのある講座をこれからも考えていきたいと思えます。

公開講座

幼教ホームカミングデー

幼児教育学科

- 日時: 令和元年10月19日(土) 14:00~15:30
- 場所: 仁愛女子短期大学 C館3階
- 参加者: 25名



本学幼児教育学科の卒業生は、50余年の歴史のなかでのべ8000名以上になります。多くの方々は、卒業後、保育・幼児教育関連の仕事に就き、その後も様々な人生を送りながら活躍されていることと存じます。今回は、そうした卒業生の皆さんのなかでも、特に近10年(平成22年3月~平成31年3月)の間に幼児教育学科を卒業した方々を対象に、卒業生同士や本学教員との情報交換も兼ねた「ホームカミングデー」を企画し開催する運びとなりました。

開催日については、一人でも多くの卒業生の方々が来校しやすいように、「仁短祭」と同日としました。「仁短祭」における子ども向け企画「じんあいこどものくに」(幼児教育学科在学生担当)が実施されていたこともあり、当日は子ども連れの卒業生の方にも参加していただきました。企画内容としては、茶話会の雰囲気です自由に

参加者同士会話を楽しんだり、保育現場で使える「手あそび」3種類を参加者全員で覚えたり、といったものを用意しました。さらに別室には「就職に関する相談コーナー」も開設し、現在、求職中の卒業生への情報提供などもできました。卒業生のなかには、久しぶりに仁短に遊びに来た、という方もいて、新しくなったキャンパス内部に興奮気味な様子も見られました。幼児教育学科教員も代わるがわる「仁短祭」業務を抜け出しては参加し、卒業後の経験や近況などを卒業生から教えてもらうなど、貴重な情報交換の場にもなりました。

これまでにも卒業生を対象とする学科企画は毎年開催されてきましたが、今回より、新たに申込時のQRコード使用を試行しました。案内ハガキのQRコードを読み込むことで「申込フォーム」へ直接つながり、事前の参加登録を簡易化したのですが、今年については、まだまだ試行的な要素も多く、残念ながら事前申込はとて少なかつたです。実際、「仁短祭」にはたくさんの幼児教育学科卒業生が来校していた様子なので、次回以降、申込システムのさらなる改善を考えていきたいと思ひます。加えて、「ホームカミングデー」実施の周知や開催会場への誘導なども工夫し、さらに参加者が増えるように努めていきたいです。来年度以降も、「ホームカミングデー」の継続を考えていますので、ぜひ卒業生の皆さん、仁短に遊びに来てくださいね。(文責: 増田 翼)



公開講座

未経験者集まれ!! 仁短 CAMP COLLEGE Vol.1

総合学務センター 学び支援課 山田 浩隆

1. 活動方針

今年度、仁短では初めて『未経験者集まれ!! 仁短 CAMP COLLEGE Vol.1』を開催しました。この講座の目的は、本学の建学の精神でもある「仁愛兼済」に基づき、相互の親睦を図り、他への思いやりや、人に喜ばれる喜び、取り組む力をキャンプの体験実習を通して学んでもらうというものです。対象は、小学生の親子としました。

また、講座スタッフとして福井県キャンプ協会から講師2名と、本学の学生ボランティア2名にも協力をしていただき、個別相談や子どもたちへの対応が出来るように配慮をしました。受講者の参加理由に、「キャンプに興味はあるけど、何から始めてよいか分からない」や「子どもと一緒に楽しみたいから」などが多くあったので、親子の不安

が少しでもなくなる様、初級編として、わかりやすく、ゲームなどをしながら楽しく講座を進めました。



キャンプについて説明を聞いている様子

2. 取り組みと成果

講座内容は、体験活動とレクチャーを組み合わせた講座にて実施をしました。前半は、子どもたちに大学生の気分を味わってもらおうと、階段教室にてキャンプ道具やキャンプで子どもが成長するシチュエーションなど、簡単な説明を聞いてもらいました。

後半は、参加者の皆さんと講座スタッフがレクリエーションゲームで相互に交流しながら、楽しく学べる体験活動を行いました。当日はあいにくの雨模様だったので、体育館にて、親子で協力しながら、簡単安全にできる薪割り体験やテント張り体験を行いました。

昼食は、学生ホールと芝生広場に移動して、超簡単カートドックづくりを体験していただきました。カートドックは、子どもでも自分で作れる料理なので、子どもたちはとても満足そうでした。多少焦げてしまった人もいましたが、みなさん美味しそうに食べていました。



体験活動の様子

3. まとめと今後の課題

事務職員が企画した、初めての講座でしたが、沢山の皆さまに参加していただき、体験活動では、親子で笑いながら楽しく受講していただく様子を見ることができました。講座後のアンケートでは、6割の方がとても満足した、4割の方が満足したと大変好評を得ることができました。

アンケート中の意見にも、「楽しかった、次回も参加したい」、「テントの立て方など、どれも初めての経験だったので今後のキャンプ活動が楽しみ」などがあり、キャンプを初めてみようかなという方には良いキッカケづくりになったのではないかと思います。

今後の課題は、ロケーションです。今回は学内にて開催しましたが、次回はキャンプ場にて開催ができればと考えています。

これからのキャンプは、人と人、人と自然、人と社会をつなぐものだと思います。新年度以降の講座では、つながる力、楽しむ力、立ち向かう力を若い人たちに実感してもらえるような企画を検討していきたいと思っています。今回、参加できなかった沢山の皆さまには、次回、是非Vol.2に参加していただき、本学の建学の精神と、キャンプの魅力を感じていただきたいと思っています。

公開講座

人生は楽しいもの？ 苦しいもの？

—お釈迦様のことばに学ぶ—

幼児教育学科 准教授 香月 拓

講座要項掲載内容

「『人生楽ありや苦もあるさ』という歌があるように、私たちの人生には楽と苦の両方があり、苦しさがあってはじめて楽しさを感じることができる」と、このように考えている人が多いのではないのでしょうか？

それでは、お釈迦様は楽しさ・苦しさについてどのように説かれているのか、一緒に考えていきたいと思います。

開催期日

令和元年10月5日(土)

14:00~15:30



開催内容

1. はじめに (お釈迦様のことばとは)

お釈迦様はその時々で、聞き手に一番伝わるような言葉を説いているため、同じ教えでも全く違った表現や例え話を用いることがあります。そのため、お釈迦様の教えは84,000と比喻されるほど数多く存在します。お釈迦様の入滅後、口伝(如是我聞)で継承されていたそれらの教えは、のちに文字で記されるようになりました。それが経典の始まりと言われています。

それらの経典の中でも一番古いとされているのが、「原始経典(ニカーヤ)」に分類される『ダンマパダ』と『スッタニパータ』という経典になります。どちらも、仏教用語をあまり用いておらず、簡潔な言葉で説かれている

ため、日常の指針になるような教えもたくさんあります。これらの教えを読み解きながら、お釈迦様が「楽しさ・苦しさ」についてどのように説かれていたのかを考えるのが本講座の目的でした。

2. 『ダンマパダ』第15章

『ダンマパダ』には「楽しみの章」があり、そこには次のような教えが説かれています。

- 197 恨みをいだいている人々の中で、恨むことなく生きることは実に楽しい。恨みをいだいている人々の中で、恨むことなく、私たちは暮らしていこう。
- 201 勝利からは恨みが起こる。敗れた人は苦しんで臥す。勝敗を捨ててやすらぎに帰した人は、安らかに臥す。
- 204 無病は最高の利得であり、知足は最上の宝であり、信頼は最高の友人であり、涅槃は最上の安楽である。

ここでは、私たちには実現することが難しい「楽しみ」が説かれています。これが楽しさだとすると、私たちが日ごろ楽しいと感じているものはいったい何なのでしょう。

3. 私たちが考える「楽しみ」「満足」とは

私たちが「楽しみ」や「満足」を考えたとき、無意識のうちにもいかに便利で、いかに快適で、いかに豊かであるか、ということに眼がいつているように思います。つきつめると、思い通りになるかどうかということです。私たちは、思い通りにならないと喜ぶことができません。そして、喜ぶためには、お金や力が必要になってきます。しかし、お釈迦様は釈迦族の王子として、お金や地位、名誉、能力などあらゆるものを持っていたにも関わらず、全てを捨て去って出家しています。お釈迦様は次のように説かれています。

他の人たちが「安楽だ」というものを、聖者たちは「苦しみである」という。他の人たちが「苦しみだ」というものを、聖者たちは「安楽である」という。法は知り難いものであると見よ。無知なる者たちはここで迷うのである。 『スッタニパータ』第3章762

私たちは人生を便利に快適に豊かにすることで楽しくしようとしています。実はそのすべてが自分を苦しめているのです。さらにお釈迦様は、人生は「一切皆苦」と言われます。

4. 一切皆苦の自覚

『スッタニパータ』、『ダンマパダ』には次のようにも説かれています。

人は、はからいからすべてのものに執着する。富に執着し、財に執着し名に執着し、命に執着する。有無、善悪、正邪、すべてのものにとらわれて迷いを重ね苦しみと悩みとを招く。

『マジマ・ニカーヤ』

人々は「自分のものだ」と執着した物のために苦しむ。なぜなら、自分が所有しているものは常住ではないからである。「それは離れいくものだ」と見て、在家に留まっただけではならない。

『スッタニパータ』第4章805

お釈迦様は、「苦しみ」を生み出すのは「執着」であり、その「執着」を生み出すのは「自分のはからい（都合）」であると説かれます。私たちは自分の都合により、豊かに思い通りに生きたいと思うものですが、むしろ、そう求める心に縛られ、心の奴隷になっているのです。あったらあったで苦しむし、なければなかったで苦しむ、そのことを自覚して、私たち自身の生き方を振り返ることが大切なのではないのでしょうか。

5. おわりに（知足は最上の宝）

お釈迦様が「知足は最上の宝」（『ダンマパダ』204偈）と説かれたように、「これでいいのだ」と、比べる必要のない自分を知ることこそが最上の宝であり、仁愛の自覚につながるのだと、私自身もこの講座を通して改めて学ぶことができました。

また、今回の公開講座は、同窓会の講演会も兼ねた開催だったため、本学卒業生の参加が多く、非常に和やかな雰囲気で行うことができました。



公開講座 親子のための虹色コンサート ～ジンタン、タンタタン♪～

幼児教育学科 教授 木下 由香

ピアノの演奏を聴いたり、音楽にあわせて体を動かしたり、親子で楽しい時間を過ごしていただきたいと思い企画しました。

日時：令和元年11月3日(日) 10:30～11:30

会場：仁愛女子短期大学 F館1階ホール

参加者：15名

まずはウォーミングアップとして手作りのマラカスや色とりどりのリトミックスカーフを使って、音楽に合わせて体を動かしました。手作りのマラカスはガチャガチャの容器を利用しており、透明で中身が見えるようになっています。小豆やビーズなどの材料が様々な配分が入っているため同じ音色のものはありません。子どもたちは手に取ったマラカスを自分の耳に近づけて音色を味わっているようでした。また、オーガジー素材のスカーフは手触りが柔らかく、形状も多様に変化するため子どもたちはもちろん本学の学生もこれを使った活動は大好きです。色彩も美しく豊かで見た目も癒されるようです。



その後は、「ワニがくるぞ～」の新聞紙ゲームをしました。新聞紙を自分の安全地帯に見立てて、タンバリンを鳴らしてワニが来るのを知らせます。子どもたちはゲームのルールを良く理解し、タンバリンの音を注意深く聴いて音が消えた瞬間、即座に新聞紙の島に乗ることができました。その新聞紙をさらに小さく折って安全地帯がだんだん小さくなくても、自分の体のバランスをとりながら島に乗ることもできました。また、新聞紙を破く活動に展開した際には、ゆっくり破いたり速く破いたり、速度に変化をつけることで音にも変化がつくことを気付いていただけたかと思います。



ゼミ生2名によるピアノ演奏の披露もありました。曲にあわせて参加者全員で踊ったりして楽しみました。

今回は音楽にあわせて体を動かし、身近にあるもので音を感じていただくような活動を行ってみました。日頃の生活の中で音楽や音に意識を持って過ごすことが子どもの感性を育成するのに大切であることを、参加者の皆様感じていただけたら幸いです。



多文化体験プログラム えいごであそぼう!

〈森田、永平寺、AOSSA、仁短祭〉

生活科学学科 生活情報専攻 准教授 野本 尚美

2019年度は以下の日程で幼児や小学生を対象とした英語教室(多文化体験プログラム)を開催させていただきました。

(1) AOSSA子育て支援室「えいごであそぼう」

- 5/25(土) 10:30-11:30
- 11/16(土) 10:30-11:30

(2) 森田地区児童館における英語教室

- 8/ 8 (木) 13:30-14:30 すみれ児童館
- 8/19(月) 13:30-14:30 森田第1児童クラブ
- 8/21(水) 13:30-14:30 森田第2児童クラブ
- 8/23(金) 10:30-11:30 森田第4児童クラブ
- 8/23(金) 13:30-14:30 森田第3・第5児童クラブ

(3) 仁短祭多文化体験プログラム

- 10/19(土) 10:00-15:00

(4) 永平寺町幼稚園・幼児園における英語教室

- 10/21(月) 10:30-11:30 松岡幼稚園
- 10/28(月) 10:30-11:30 御陵幼児園
- 11/ 1 (金) 10:30-11:30 松岡西幼児園
- 11/25(月) 10:30-11:30 上志比幼児園

(5) 小学校高学年対象英語教室(英語劇)

- 11/30(土)、12/1(日)
- 両日とも13:00-15:00 森田公民館

AOSSA子育て支援室における公開講座では、食べ物や顔のパーツなど日常生活の中で使う英単語を中心に学びました。またそれらの英単語を用いてご自宅でもおままごとやごっこ遊び等で活用してもらえるような教材作りを心掛けました。特に11月の講座で用いたフェルト手芸の野菜は、英語サークルの学生たちと試行錯誤を重ね、こつこつと手縫いした思い出の教材です。幼児が英語を学ぶ際



AOSSA子育て支援室 5月の講座の様子

には、身近な人との心のもったコミュニケーションを体験することが大変重要であると考えます。私たちが作成した教材がその一助になれば嬉しく思います。



AOSSA子育て支援室 11月の講座用に作成した教材

森田地区児童館における英語教室では、「世界の遊びを体験しよう」というテーマでアメリカ、ネパール、スウェーデンの遊びを取り上げ、それぞれの遊びの中で使う英単語を学びました。特にクップというスウェーデンの遊びは単純そうに見えてなかなか難しく、チーム戦で盛り上がりました。子どもたちの異文化に対する理解を深められるような活動を今後も続けていきたいと考えています。



クップ(スウェーデンの遊び)を体験する子どもたち

仁短祭では「動物の鳴き声の表現」を取り上げました。子どもたちにはまず英語の音声を聞かせて何の動物の鳴き声を表しているか考えてもらい、その動物が描か

れたカゴにボールを投げてもらいました。例えば馬の鳴き声は、日本語では「ヒヒーン」と表されるのが一般的ですが、英語では「neigh (ネーイ)」と表現します。このような違いについて子どもたちだけでなく保護者の方にも興味を持っていただき、多くの方にご来場いただきました。



仁短祭の様子

永平寺町の幼稚園・幼児園では「幼児向け英語教材」と「異文化理解教育」を卒業研究のテーマとした学生4人が講座を担当させていただきました。英語教材については保護者の方々のご意見も参考にした上でオリジナルの教材(英語カルタ)を作成しました。また、異文化理解教育では韓国の「投壺(とうこ)」という遊びを取り上げ、チーム対抗戦で楽しんでもらいました。幼児を前にして講座を行うことは学生にとって初めての体験で少々戸惑う場面も見られましたが、安全面に配慮した環境設定や、幼児が家族や友達とのコミュニケーションを通して英語を学ぶことの重要性について深く学ぶことができたと思います。幼稚園・幼児園の先生方、またアンケートにご協力いただきました保護者の方々に深く御礼申し上げます。ありがとうございました。



学生が作成した英語カルタを手渡している様子



韓国の遊びについて説明している様子

今年度初めての試みとして、小学校高学年(4、5、6年生)を対象とした2日間の講座をゼミ生2人が担当させていただきました。小学生のみなさんに“気持ちを込めて英語を話す”という体験をしてもらいたいと考え、森田公民館の皆様にご協力いただき、英語劇「The Shoemaker and the Elves(こびとのくつや)」を参加児童7人で練習しました。短い時間で英語のセリフを覚えることはとても難しかったと思いますが、全員が自分のセリフをしっかりと暗記し、最後に保護者の方々の前で堂々と英語を使って役を演じる姿には大変感動しました。保護者の方からは「家でも練習し、英語に興味を持ったようだった」などのご感想をいただきとても嬉しく思いました。ご協力いただきました公民館の皆様、そしてご参加いただきました皆様、本当にありがとうございました。



発表を終え保護者の前で挨拶をする子どもたち

地域連携

森田地区まちづくり協議会と仁愛女子短期大学との 連携事業報告

総合学務センター 入学・地域支援課

「森田地区まちづくり協議会と仁愛女子短期大学との連携に関する協定」が平成22年8月30日に締結されました。この協定に基づいて、令和元年度も相互に連携・協力して様々な事業を行いました。

1. 森田地区・仁愛女子短期大学連携協議会

令和元年6月27日(木)、仁愛女子短期大学にて「令和元年度 森田地区・仁愛女子短期大学連携協議会」が開催されました。

森田地区から文化委員会委員長、森田公民館館長、森田公民館主事、本学から総合学務センター長、事務長、入学・地域支援課長、入学・地域支援課係長が出席し、平成30年度に実施した連携事業の報告及び令和元年度実施予定の連携事業について協議を行いました。

2. 森田公民館と入学・地域支援課の事務打合せ

令和2年2月18日(火)、仁愛女子短期大学にて事務打合せが開催されました。

森田地区から森田公民館館長、森田公民館主事、本学から総合学務センター長、入学・地域支援課長、入学・地域支援課係長が出席し、令和元年度の振り返りと令和2年度実施予定の連携事業等について話し合いました。

3. 継続事業

本年度の継続事業として、もりのわフェスタ、森田地区児童館等における英語であそぼう講座、干支の折り紙プレゼント作り、JR森田駅構内の夢ギャラリー森田へ作品展示等を実施しました。

また、森田地区の方への本学附属図書館の利用サービスも実施しました。本年度は、新規利用申請者5名、利用人数58名、貸出冊数198冊でした。

4. 新規事業

本年度の新規事業として、森田駅周辺整備構想、森田

公民館において小学校高学年を対象とした英語劇を実施しました。

5. 森田地区(九頭竜大学)の本学キャンパス見学会

森田公民館では、教育事業の一環として高齢者学級の九頭竜大学を企画しています。その一環として、7月17日(水)に九頭竜大学の本学キャンパス見学会を実施しました。

昨年度同様に、生活科学学科生活情報専攻のゼミ中間発表会に参加していただき、発表内容について学生と意見交換をするなど学術的な交流も深めることができました。また、図書館見学、図書館利用サービスの新規登録、学食体験等も行いました。



6. 仁短祭での模擬店出店

九頭竜大学の方による、本学大学祭への模擬店出店が10月19日(土)に実施されました。このように大学・地域の祭に相互参加することで、学生との相互理解・交流が図られました。

福井市との包括連携事業 プロジェクションマッピングにチャレンジ！ ～ もりのわフェスタ2019 ～

生活科学学科 生活デザイン専攻 教授 内山 秀樹

9月29日(日)、第3回もりのわフェスタに本学生活デザイン専攻1、2回生が参加しました。

1回生29名は、子供達を対象にした遊びの広場「もりのわワンダーランド」を担当。5グループに分かれて授業の一環として、「それいけブーメラン」、「作って!かくして!お宝探し!」、「巨大もりのわカルタ〜2019」、「ぺたぺた合戦」、「もりのわタウン〜色をなくした町」の5つの企画を夏休みにも準備して当日に臨みました。

教室で企画していた時に比べ屋外の空間が思ったより広いことに戸惑ったり、開店前の準備の最中に小雨がふり、段ボールがぬれて塔の設営ができないなどのアクシデントもありましたが、それぞれに工夫を凝らした企画に訪れたこども達の歓声が鳴り響き、学生も手応えを感じていたようです。

フェスタの夜の部では、懸案事項であったマイアークア

給水塔壁面を活用した映像表現として、地元デザイナーさん2人と本専攻卒研究生3人がプロジェクションマッピングにチャレンジしました。

5月下旬から福井大学明石研究室での勉強会、本学での企画検討会を重ね、『水の尊』を上映しました。その昔、九頭竜川で暴れる龍を巫女が弓矢で封じ込めました。その後、森田では平和な日々が続き人々は安らかな日々を送っていましたが、千年たった今、封じ込めた龍が給水塔の中で蘇りました。その龍を討つために現代の巫女が立ち上がりました。巫女役の学生が弓を射る実像と映像が連動し、来場者の応援が巫女のパワーとしてチャージされる内容で、子供達の熱狂的な声援をうけて弓矢が放たれ、再び龍が封じ込められました。

この企画に関わった学生たちは、プロから仕事の厳しさやりがいを大いに学ぶ機会となったようです。



クライマックスの龍退治シーン プロジェクションマッピング



大はしゃぎのこどもたち「巨大もりのわカルタ」



現代に蘇った龍の退治に必死で声援を送るこどもたち

福井市との包括連携事業 ふく²ベジ・ファースト応援事業 (食育推進事業)

生活科学学科 食物栄養専攻 教授 牧野 みゆき

ふく²ベジ・ファースト応援事業では、ベジ・ファースト(まず野菜から食べる)を合言葉に、食を通じた健康づくりを推進するための情報発信役として平成28年度から食物栄養専攻の学生が「ベジ・ガールズ」として活動しています。今年度は明るく元気な1回生3名が活躍してくれました。



令和元年度の活動として、11月10日に福井市健康管理センターで開催された「健康フェア2019」に参加しました。福井市医師会をはじめ多くの出展団体の中にベジ・ガールズ(仁愛女子短期大学)も加えていただきました。会場では口腔内細菌測定、脳活測定、足指力測定、筋肉量・体脂肪測定、認知症の簡易検査、肌年齢測定、手洗い体験、オーラルフレイル予防相談、日常生活(身体面)相談、健康クイズラリー、ペダルこぎチャレンジなど、多くの企画が用意されていました。



その中で、「はじめよう、ベジ・ファースト」と題して、福井市園芸センターで開発されたにんじん「きやろふく」を使ったマスタード和えと、福井市園芸センターお薦めのイタリア原産のキャベツの一種「カーボロネロ」を使った切り干し大根との炒め物を、福井市健康管理センター管理栄養士の森石さんと福井市食生活改善推進員の方たちが準備してくださり、ベジ・ガールズは試食として約200名の参加者に配り、ベジ・ファーストをPRしました。彩りがよく、おいしいと好評でした。



2月11日からハピリンにある福井市観光物産館・福福館内の福福茶屋にてベジ・ファーストメニューの提供が始まり、食物栄養専攻2回生全員が考案した野菜メニューのうち、「タコきゅうり」と「野菜ちりめんサラダ」の2品が提供されました。

次年度も学生がレシピを考案する予定で、ベジ・ファースト応援事業&食育推進事業に積極的に取り組んでいきます。

福井市との包括連携事業

福井市との新幹線CM作成プロジェクト

生活科学学科 生活情報専攻 准教授 澤崎 敏文

仁愛女子短期大学では福井市新幹線プロモーション室と連携して、2023年春に開業予定の北陸新幹線をPRするための広報について検討を行いました。具体的には、新幹線開業に向けて、福井市の魅力を県内外に広くアピールし、観光誘客につなげるためのCM動画の作成を行いました。

夏ごろから市の担当者の方々と打合せをスタートし、後期に開講された生活情報専攻「コミュニケーション演習I」の課題解決型授業（PBL）の一環として実施。CMのターゲット設定のための事前調査、シナリオ作成から撮影場所の選定、撮影、編集まで、学生たちが試行錯誤しながら進めてきたプロジェクトです。

後期の授業スタート時に、市の担当者の方々に来ていただき、現在までの新幹線福井延伸の進捗状況、福井市が抱える観光行政における課題の数々、そして、一乗谷朝倉氏遺跡をはじめ、広く知ってもらいたい福井市内の観光名所の魅力を説明していただきました。普段、生活していると、地元の観光地について意識することは少ない学生も、新たな魅力の再発見ということで、これらをどのように県外の方々にPRしていくかワクワクしながら議論をスタートさせました。その後、学生たちは、12月末にCM動画の最終調整とプレゼンテーションのための準備を行い、全部で5つのCM動画が完成。1月10日の授業にて、福井市の新幹線担当、広報担当の職員の方々に向けたCM動画の披露を行いました。



学生が作成したCM

学生が作成したCM動画はどれも1分程度。テレビCMだけでなく、YouTube等インターネット上での配信も意識した作品になっており、福井市の四季折々の美しさや日常を描いたものから、福井弁などの方言を取り上げたもの、アニメの舞台を意識したような内容の作品など、学生ならではの発想に、発表を聞いた市職員からも驚きの声が上がりました。特に、スマートフォン世代を意識したような縦長のCM動画を作成したグループもあり、時代を反映した映像作品となりました。

この様子は、翌日の新聞や夕方のテレビニュース番組でも大きく報道され、福井市役所の公式ページでも紹介されています。また、本学澤崎研究室のYouTubeチャンネル「さわらぼ」でも全ての作品を公開していますので、ぜひご覧ください。



市職員の説明の様子



YouTubeにて「さわらぼ」で検索、または、QRコードをご利用ください。

福井市との包括連携事業

令和元年度 保育研究合同発表会

幼児教育学科 准教授 乙部 貴幸

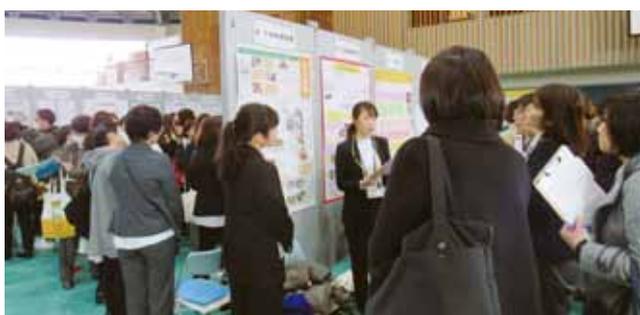
仁愛女子短期大学と福井市は包括連携協定（平成27年5月18日）のもと、様々な事業を実施してきました。令和元年度には、新たな取り組みとして、仁愛女子短期大学幼児教育学科と福井市子育て支援課の共催による「保育研究合同発表会（令和2年1月25日）」を開催いたしました。

従来、幼児教育学科では学生の学習成果を学外に発信する事業の一環として「幼児教育学科発表会」を行ってきました。また、福井市子育て支援課では、福井市内の公私立保育園が取り組んできた研究を発表し合う「保育研究発表会」を開催してきました。個別に行ってきたこれらの発表会を合同で開催し、保育者の卵である学生と現職保育者が一堂に会する事で、互いの学びをより広く、深くすることをねらいとして、共催することとしました。

発表会は、大きく分けて①学生・各保育所・こども園からの研究発表からなるポスターセッション、②福井市保育アドバイザーによる6つのミニレクチャー、③福

井市の研究指定園の研究内容から保育の質の向上について考えるシンポジウムの3つを柱に行われました。午前・午後を通した全体の参加者数は495人（学生・教員184名、現職者311名）でした。学生に対して行ったアンケートでは、「発表し質問していただいたことで、研究の足りないところを見つけることができた。またアドバイスも頂けて学びが多かった。」「現職者の取り組みを見て、また現職者と交流して、保育者の素晴らしさを実感し保育者になりたいという思いが強くなった。」といった前向きなコメントがあり、大変有意義な発表会となりました。

次年度以降も、より学びが広がり、深まる発表会にすべく、福井市と協議しながら実施していく予定です。



現職保育者によるポスター発表



現職者、学生の前でポスター発表を行う2回生



福井市治水記念館館長 平井博政氏によるミニレクチャー「自然や物を使った遊びを楽しもう」の様子。他に5つのミニレクチャーが同時に行われた。



シンポジウムにおける福井市研究指定園の話題提供の様子

坂井市保育研究会 保育園への出前授業

幼児教育学科 教授 重村 幹夫

平成28年度より、坂井市保育研究会からの依頼で出前講座を行ってきました。この4年で訪れた保育関係施設は30園以上になりました。保育者を対象とした講義演習を行うこともありました。大半は幼児を対象とした造形活動です。その活動については、「造形遊び」の概念を用いています。これは、本来小学校の図画工作において提唱されたものですが、現在では中学、高校の美術にまでその影響を与えているものです。その本質は、材料や技法の環境構成を行い、後は必要に応じて援助をしながらも、基本的には子どもが本来持っている創造性に委ねるという考え方に基づいています。実は、このような考え方とその結果生まれた作品は、20世紀特に戦後以降の美術制度と奇しくも対応していると指摘されることが多いのです。また、保育の現

場には「造形遊び」という言葉はありませんでしたが、現場が長年実践してきた内容と共通するところもあり、近年は小学校の「造形遊び」と区別して「造形あそび」と呼ばれ、実践、研究が見られるようになってきました。

これまでに関わった幼児は600人を超えるまでになりましたが、この講座を通じて私が子どもから学んだ最も大きなことは、子どもの力といひましようか、その圧倒的な生命力の再認識です。「造形遊び」の提唱者は、「子どもと切実に生き合う」と述べています。この「切実に」という言葉はいかにも大げさなようですが、子どもとの関わりを通じ納得がいくものとなりました。それは、主体的に集中して活動に取り組む子どもたちの真剣な表情に端的に表れています。



多様な材料をいつでも取りに行けるよう環境構成を行う 年長児



ビー玉転がしの装置を多様な材料で試みる 年中児



多様な作品の完成 年長児



ホール全体を使う 中央に置いた材料がほとんどなくなっている 年中児

永平寺町との包括連携事業 令和元年度 永平寺町と仁愛女子短期大学との 連携事業報告

総合学務センター 入学・地域支援課

永平寺町と仁愛女子短期大学は、平成30年5月15日に「包括的連携に関する協定」を締結しました。この協定に基づいて、令和元年度も相互に連携・協力して様々な事業を行いました。

連携事業一覧

【英語教室】

内 容：5歳児を対象に、英語にふれ、英語を通して
コミュニケーション演習を実施

講 師：本学 生活科学学科 准教授 野本尚美

開催日時：①令和元年10月21日(月) 10:30～11:30

〈松岡幼稚園12名、吉野幼稚園3名、
松岡東幼児園12名〉

②令和元年10月28日(月) 10:30～11:30

〈御陵幼児園20名〉

③令和元年11月1日(金) 10:30～11:30

〈松岡西幼児園21名〉

④令和元年11月25日(月) 10:30～11:30

〈上志比幼児園18名〉

【園への訪問】

タイトル：気になる子への関わり方

(園巡回、保護者相談)

内 容：子どもの見方、特別支援の方法、
保護者相談 等

講 師：本学 幼児教育学科 講師 中尾繁史

開催日時：通年

会 場：永平寺町の幼稚園・幼児園

参加人数：保育者 約100名

この他、醗酵文化研究協議会への参画や、永平寺町PRデザインの学生参加についての協議会への参画等を行っております。



図書館企画展示の活動報告

附属図書館 竹下 真弓

図書館では「図書コミュニケーション」をキャッチフレーズに知的好奇心を共有する出会いの場として、月1回のペースで企画展示を行っています。閲覧は可能ですので、是非ご来館ください。また、本学卒業生と森田地区住民の方には貸し出しを行っています。詳細は附属図書館ホームページ (<http://www.jin-ai.ac.jp/lib/>) をご覧ください。

●2019年4月「本屋大賞受賞作品展」

2019年本屋大賞受賞作『バトンは渡された』瀬尾まいこ著をはじめ、候補作品9冊を展示しました。



●2019年5月「平成の時代を本で振り返る展」

18年分のランキングとその年に1位となった作品と一緒に展示しました。



●2019年6月「生活情報専攻のオリジナルカバー・帯展」

生活情報1回生「マルチメディア演習Ⅰ」の授業で製作したオリジナルカバー・帯を付けた図書を64冊展示しました。学生が選んでくれた様々な分野の本がずらりと並びました。



●2019年7月「創作絵本展」

本学の生活デザイン専攻2回生が「デッサンⅡ」の授業で創作した21作品を展示しました。ストーリーから絵本カバーまで全てオリジナル絵本です。見応えたっぷりの絵本に他学科・他専攻の学生たちも興味津々でした。



●2019年9月「図書館サポーター選書本」

図書館サポーターが書店で選書した図書など77点をおすすめのコメントを添えて展示しました。同年代の学生が選ぶ図書は、魅力的な内容が多いため、毎年人気のコーナーです。



●2019年11月-12月「サークルとコラボ企画」

サークルで制作した作品とそのサークルに関連した図書を展示しました。紹介したサークルは、「猫部」、「漫画研究会」、「折り紙研究会」です。



●2020年1月「第7回青空文庫表紙コンテスト」

Webサイト「青空文庫」には著作権の切れた古い文学作品が掲載されています。その中から3作品（今年は、『蜜柑』・『小さい太郎の悲しみ』・『星の銀貨』）を図書館が選び、作品の持つ魅力を一層際立たせる様な「表紙デザインコンテスト」を行いました。優秀賞受賞者には、副賞として図書カードと作品を表紙にした文庫本を贈呈しています。

今年度優秀賞受賞作品



●2020年1月「小倉百人一首大会」

この大会は、百人一首を通じ親交を深めることを目的に開催しました。授業の空き時間や、お昼休みなどに56名の参加者が百人一首の魅力に触れていました。



今後も、図書館が様々な図書との出会いの場、また、人と人をつなぐコミュニケーション場、また安らぎの空間になるよう目指してまいります。

令和元年度 報告

福井市子ども家庭センター 子育て支援室・相談室

副室長 野路 昌美

子育て支援室・相談室は、福井市委託事業として平成19年度に業務を開始してから、今年度で13年を迎えた。地域子育て支援拠点機能と家庭相談機能の充実を図りながら事業の運営に努めた。



AOSSA5階子育て支援室/乳幼児親子のあそび場



AOSSA6階レクリエーションルーム/季節の行事



相談室

【子育て支援室】

子育て親子の交流の場の提供を柱として、子育てに関する講座の開催や各種情報提供、相談支援、地域支援などを展開した。年間283日開所し、のべ利用者数は13,400人であった。毎月、約230世帯の利用があった。児童年齢では、0、1、2歳が約80%、3歳以上は約20%の利用となっていた。保護者については、母親の利用が大多数ではあるが、一方で、父親は、土日祝に多くの利用があった。子育てに関する講座では、保護者に関心を持ってほしい事柄や親の子育て力を高められるような話題を取り上げ、専門の講師を招き子育て講座(表1.)を開催した。また、利用者同士が交流をしたり、親子のスキンシップを深めたりするなど、地域のボランティアが講師となって行う親子講座を計65回開催(表2.)し、のべ2,000人以上の参加があった。その中の「Cupsコップダンス」は、プラスチック製のカラフルなカップをテーブルの上で音楽に合わせて叩きリズムを作り出すパフォーマンスで、季節に応じたダイナミックな演出が親子の関心をさらに引きつけていた。「子どものクツの選び方」は、靴の選び方って難しいよね、歩いて大事なことだよ、という子育て家庭の話題を理学療法士としてお勤めの利用者から提案いただき実現した。同じく、地域団体の主宰をしている3児をもつ父親からの提案で「ミニマジックショー」を開催。マジックという一見高度なものを、大人には巧みに、子どもにはわかりやすく不思議さと驚きを表現して魅せてくれた。

表1. 子育て講座

日程	タイトル	講師
4月17日(水) 1月16日(木)	一枚の紙から楽しいお話	武藤 英子氏
5月25日(土) 11月16日(土)	えいごであそぼう (仁短公開講座)	野本 尚美氏
6月 6日(木)	乳幼児期の歯	三浦 保紀氏
6月10日(月)	リトミックあそび	坂下 泰代氏
6月14日(金) 11月29日(金)	ベビーマッサージ	川端起代美氏
8月10日(土)	きのこのこ劇場	松村 典子氏
10月 3日(木)	いろんな音を楽しもう (仁短公開講座)	木下 由香氏
12月 4日(水)	ミニコンサート (仁短公開講座)	坂本 流美氏
12月19日(木)	ハンドベル演奏会	吉田紀美江氏
3月11日(水)	リトミック遊びを楽しもう	廣田ちえみ氏

表2. 地域ボランティアによる親子講座

テーマ	講師(ボランティア)	回数
Cupsコップダンス	コミュニティサークル	5
えっちゃん絵本読んで	絵本アドバイザー	11
子どものクツの選び方	理学療法士	2
ママと子のゆかいな音楽会	ハーモニカ奏者	5
ミュージック・ケア	ミュージックケアワーカー	6
手作り人形劇	保育士グループ	4
親子で楽しく骨盤体操	カイロプラクター	6
大型絵本と音あそび	ピアノ講師	6
リトミックあそび	リトミックケアワーカー	6
えいごであそぼう	英会話講師	6
〈その他〉マジック、オカリナ、フルート、ウクレレ、ハーモニカ、ハンドベル、多民族楽器、わらべうた、エクササイズなどを開催		

これらの講座を開催する際には、常に子育て支援ボランティアの協力を得ている。地域のシニア世代を中心とした“たまごの会”。メンバーらは、いつも利用者親子と程よい距離感に寄り添い、あたたかな和みの雰囲気を作り上げてくださっている。

その他、本学園生徒や学生らの学びの場とする、体験学習や自主活動の受け入れ機会を積極的に設けた。

さらに、中学生による地域貢献活動の受け入れを初めて行った。地域施設の広報活動をする取り組みであり、当所には広報班4名の生徒が見学と調査のため来所。彼らの柔軟な発想から作り上げられた4枚のポスターの提供をいただいた。



明倫中学校 地域貢献活動 広報班
ポスター作り

【親支援事業「ほっとる一む はぐはぐ」】

就学前の子どもの保護者や妊婦とその家族(5名程度)を対象に、育児不安やストレスの軽減、孤立防止や親育ちの視点から、健康で安全な子育てを目指したグループ活動を開催した。子どもと離れ保護者だけで集まり、導入として、ファシリテーター(臨床心理士)から毎回簡単な話題提供(表3.)を行った。保護者は、子育ての不安や悩み、子育てをしながら感じているさまざまな思いを自由に語り合った。参加者の感想には、「みんなそれぞれに悩みや不満がある、自分一人ではないと知って楽になった」「自分とは違った意見が聞けて参考になった」などがあがっていた。

表3. 「ほっとる一む はぐはぐ」実施内容

日程	タイトル
1 5月15日(水)	子どもの「イヤイヤ」どうしてる？
2 7月17日(水)	「甘え」と「わがまま」の違いって？
3 8月21日(水)	「しつけ」ってむずかしい
4 9月18日(水)	子育てしている、悩みもいろいろ
5 11月20日(水)	子どものほめ方、叱り方
6 12月18日(水)	きょうだい関係、ともだち関係
7 1月15日(水)	ゆっくり、ゆったり子育て
8 2月19日(水)	ストレスとの付き合い方



体験学習
仁愛女子高等学校生徒



「えいごであそぼう」
仁愛女子短期大学学生



「ほっとる一む はぐはぐ」
子育て支援ボランティア たまごの会



松本公民館
地域支援活動



4月17日「1枚の紙からたのしいおはなし」



8月24日「ミュージック・ケア」



11月21日「リトミックあそび」

【相談室】

相談室は、今年度、年間308日開所し、18歳未満の子どもの養育や乳幼児期の子育て等に関する相談(表4.)について対応を行った。相談方法(表5.)は、来所面談や電話などに対応するとともに、家庭支援の層を厚くするために市の各関係機関との積極的な連携を進めていくよう努めた。

その他、市要保護児童対策地域協議会(要対協)では、その一員を担い、実務担当者会議への参加、必要に応じ個別ケース検討会議への参加を行った。保護者の養育や家庭環境について、気がかりさがある子育て家庭については、家庭支援を担当し、親子来所面談や家庭訪問、関係機関と連携調整を図るなどの対応を行った。

表4. 相談件数(令和元年度)

	子ども相談	子育てママダイヤル	小児科・弁護士相談	合計(のべ件数)
件数	1,322	255	62	1,642

表5. 相談対応方法(令和元年度)

	来所面談	電話	家庭訪問	その他
件数	607	898	119	18



小児科相談/平谷こども発達クリニック 平谷医師



ショッピングセンターでの啓発活動/ボランティアサポーター

【子ども虐待防止オレンジリボン運動】

今年も「大好き。こどもの笑顔。みんなの笑顔。」をテーマに、福井市と協力して児童虐待防止普及啓発活動オレンジリボン運動(表6.)を行った。特に、月間に合わせた啓発イベント「こども笑店2019」は、福井駅西口のハピリンにて開催し、啓発パンフレットの配付、子育て支援団体による話題提供や親子遊びの提供を行ったところ、のべ1,500名以上の来場を得ることができた。これらの活動には、園児から小中高校生、社会人といった個人や子育て関係団体や社会奉仕団体など、多くのボランティアサポーターの協力を得ることができた。

表6. オレンジリボン運動活動実績

項目	日程	会場
街頭啓発	7月13日(日)	ラブリーパートナーLpa ショッピングセンターアピタ福井店
	9月7日(日)	ラブリーパートナーLpa ショッピングシティBell
	11月1日(木)	福井駅前西口ひろば
こども笑店	10月27日(土)	ハピリン2階しあわせ広場

今後も、子育て不安の軽減や虐待の未然防止を図るために、子育て家庭が孤立しないような取り組みをさらに企画検討し、積極的に活動に取り組んでいきたいと考えている。

《子ども虐待防止オレンジリボン運動 こども笑店2019》



クリップUFOキャッチャー作り



子育て支援等の情報提供



NPO法人心からサポート協会
「親子のコミュニケーションのヒント」



ボランティアサポーター
YouTubeに投稿

学生の社会的活動報告

森田イベントでの活動

生活科学学科 生活デザイン専攻 2回生 田端 桃子

5つの卒業研究チームは「もりたシャルソン」「森田文化祭」に参加しました。私は人の集う場について考察する卒業研究をしていたので、実践として参加させていただきました。私たちは、移動式の屋台で人の集う場を開きます。屋台で人の集う場を開いてみたい!という私の思いから生まれたものです。身近にあった廃棄物を活かす研究をしている岡崎さんに協力していただき、森田のイベントに参加する学生と一緒に移動式の屋台を制作しました。

イベント当日は、屋台を仁短から目的地までみんなで押して向かいます。私たちは、卒業研究に沿った雑貨やアクセサリを販売したり、学生と先生で作った梅ジュースをおすそわけする屋台を開いたりしました。例えば「うんこ」をテーマに卒業研究をしているチームpoopは、うんこグッズを販売し森田の子供たちに大人気でした。似顔絵屋を開いた私は、二度森田でのイベントに参加したので、もりたシャルソンで似顔絵を描いた高校生のお父さんが森田文化祭に来てくるという事もありました。私の得意なことが人と私・人と人を繋いでくれる役割を果たしていることに喜びを感じました。

森田のイベントを通して協働できる仲間ができました。一人で屋台を開くときには感じられない、同じ熱量を持った仲間との「人が集う場づくり」は素晴らしいものでした。また、イベントで得た個々の利益の1/4は、次の人が集う場を開く為に役立てられています。今あるものとの繋がりを深めるきっかけを与えてくださった森田のイベントに感謝しています。



短大から会場へ向かう様子

サイバー防犯啓発グループPsybernic'sの活動

生活科学学科 生活デザイン専攻 2回生 野坂 亜鼓

私たちは、県内の他大学の学生と共に、サイバー防犯啓発グループPsybernic'sに所属し、ボランティア活動を行いました。Psybernic'sはインターネット上のトラブル防止の啓発を目的に結成されたグループです。本学での活動メンバーは生活デザイン専攻の石井祐奈さんと田端桃子さん、私野坂の3名です。主な活動内容は、サイバー防犯に関する啓発ポスター・書籍の制作でした。



書籍デザイン提案の様子

インターネットが普及し、あらゆることが便利に、早く、簡単にできるようになった現代。その反面で、犯罪やトラブルに巻き込まれる事例が増えているようです。同世代に向けて啓発を促すべく、学生目線での啓発書籍を制作することになりました。イラストや言葉で何がどう危険なのかを伝え、自分自身の実体験をまとめました。書籍の制作にあたっては、他大学の学生とのグループディスカッションを重ねました。書籍のタイトル・サブタイトル案を出し合ったり、身近に起こったインターネット上のトラブル例を挙げたりと、意見交換を行いました。年齢も学んでいることも違う学生同士が、同じテーマについて考える機会は短期大学生の私にとって新鮮な場でした。

Psybernic'sのボランティア活動を通して、インターネットトラブルや犯罪に関する知識や対処法を学んだだけでなく、他大学との学生と交流する貴重な経験ができました。学内にだけに留まらず、学外での様々な活動に足を運び、実戦経験を増やすことが短期集中で自分を成長させることへと繋がったように思います。

台湾研修

生活科学学科 生活情報専攻 2回生 大門 友美

昨年5月、生活情報専攻の学生を対象として台湾研修についての説明と参加者の募集がありました。募集の結果、2回生は私を含めた4名、1回生は3名の計7名が参加を希望しました。私にとって初めての海外で不安はありましたが、担当の先生が同行してくれること、頼りになる友達がいることで安心することができました。そして台湾における活動のビッグプロジェクトとして、現地の出版社に出向き「本の売れ行きを伸ばすためのアイデア」を英語で発表することになりました。そこでまずはこの出版社がどういう人を対象に、どのような本を出版しているかなどの情報収集を行いました。調査の結果、音響機器の雑誌であり、購読者は年齢が高めの富裕層で女性よりも男性が多いことが分かりました。そこで私たちは1回生と2回生の2グループに分かれて、若者と年配の方を対象にアイデアを考えることにしました。年代ごとに分けた理由は、新たな顧客づくりを促すために若者をターゲットにしたかったからということと、元々購読している50代～70代の方に定期購読者になってもらいたかったからです。私たちは何か月も時間をかけて、アイデアをパワーポイントにまとめプレゼン資料を作成しました。内容として、1回生はLINE・Twitter・InstagramなどのSNSを活用して雑誌の情報を発信することや、雑誌の表紙をオシャレにすることでインテリアとして活用してもらうなどといった若者向けのアイデアを考案しまとめました。2回生は、雑誌の付録を1ヶ月ごとに一部のパーツにして何か月も購入すると付録が完成する方式にすることや、半年や一年といった長い期間購読してくれた人だけに特典を付けるというように定期購読者を増やすためのアイデアを考案しまとめました。また雑誌のミニチュア版の発行のアイデアも加えました。プレゼン資料が完成に近づくなか、日本語を英語にするという作業に最も苦労しました。というのも、英語には一つの単語に複数の意味があり、単純に訳すだけでは言いたいことが伝わらなかったからです。そこで翻訳アプリや辞書を使って意味を精査し、分かりやすい文章に再度直して英語にすることにしました。台湾に出発する直前に、写真を多く使って英語版にしたプレゼン資料が完成しました。本番の発表では出版社の方に私たちのアイデアが伝わり、「面白いアイデアだった」とおっしゃっていただくことができました。海外の方にプレゼンすることの難しさや、アイデアが伝わった時の嬉しさや達成感を味わ

えたことは、私たちにとって貴重な経験になりました。中正紀念堂や故宮博物院など台湾の観光地を巡ったり、タピオカドリンクや小籠包などの台湾名物も食べたりして、思い出に残る3泊4日の時間を過ごすことができました。



木のおもちゃ博

幼児教育学科 2回生 南 京花

私たちは、産業会館で行われた「木のおもちゃ博 木育キャラバン」に、香月ゼミのボランティアとして参加しました。世界中の良質な木のおもちゃが1,000種類以上あり、県産木材を使用した木育ワークショップでは、楽器やおもちゃなど様々な木工体験が楽しめるイベントでした。

私たち学生は、それぞれのブースでおもちゃの説明をしたり、子どもたちが安全に遊べるよう環境を整えたりするボランティアをしました。イベントが始まる前に木育や木のおもちゃについての説明を聞いて、木育とは木と触れ合い、木に学び、木でつながりながら豊かな感性を育てていくことだと学びました。また、このイベントにあった木のおもちゃには、遊ぶルールがなく、五感をフルに使い、子どもたち自ら遊び方を発見していくものであることを知りました。イベントに参加していた子どもたちは、「こうして遊ぶの」や「このおもちゃ知ってるよ」と、私に教えてくれました。

このボランティアを通して、同じおもちゃでも子どもによって遊び方が違うのが面白く感じました。だからこそ、子どもたちが自ら遊びを発見できるように見守る関わり方が大切だと学ぶことができました。また、子どもたちから大人まで夢中になって遊べる木のおもちゃは素敵だなと感じました。貴重な体験ができたので、今後の保育に活かしていきたいと思っています。

練り物商品を使用したレシピ考案について

生活科学学科 食物栄養専攻 2回生 森 ゼミ (スギヨガールズ)



私たちは、卒業研究で練り物商品を使用したレシピ考案を行ないました。はじめは、調理実験をしようか、それとも調理における調査をしようかと悩んでいましたが、石川県の練り製品の会社‘スギヨ’から、レシピ開発の依頼があり、『やりたい!』とすぐに返事をしたのが、私たちスギヨガールズの始まりです。

すぐに、私たちなりにレシピを考えましたが、すでにレシピ本になっていたり、スギヨのホームページに掲載されていたりと、新たなレシピを考案することが、こんなに困難なのかと衝撃をうけました。たくさんのレシピを思いつくまにメモをし、ホームページや料理本もたくさん見ました。試作もたくさん行いました。試作中に、先生からのアドバイスを受け変更したり、メンバーの中で様々な意見を出し合い試行錯誤して、ようやくスギヨの本社の方や広告会社の方、FBCのカメラマンを交えて、一回目の試食会を行ったときは、どんなコメントがあるのか、とても緊張しました。



夏には、スギヨの本社や工場・農場を見学しました。実際にカニカマや加賀揚げを作っている工場内に入り、目の前で完成されていく練り物製品を見ることができました。考案したレシピの中の2品が農場レストランで提供されており、シェフからお客さんから盛況だという話を聞くことができ、大変感激しました。



また、学祭では、カニカマ担々麺を提供し、250食を売りました。目標は300食だったのですが、大雨の中買いに来ていただいたお客さんに、美味しいよと言っただけでとても嬉しかったです。



最後には、スギヨ本社の方、広告会社の方、先生方や職員さんにたくさんお世話になり、想像以上のレシピ集が出来あがりました。卒業研究を通して、授業で学んだ調理方法や技術などを活用し、さらに発想力が身につきました。これから、私たちは栄養士や食品会社で働きます。この経験を元にいろんなことに挑戦していきたいなと思います。

栄養研究サークル活動報告

生活科学学科 生活情報専攻 2回生 堀口 菜々美

6月にはグリーンセンターにて開催された「フラワーグリーンフェア」でパウンドケーキの販売を行いました。プレーン、ココア、抹茶などの定番の味を用意して、伝統のパウンドケーキを食べていただけるようにしました。売り方なども工夫したため、たくさんの人にパウンドケーキを買っていただくことができました。9月にはマイアクアにて開催された「もりのわフェスタ」に参加しました。もりのわフェスタではほうれん草とかぼちゃの味を増やして、野菜が苦手な方でも食べやすいパウンドケーキに仕上げました。野菜のパウンドケーキはとても人気があり、すぐに売り切れてしまいました。

サークル活動を通していろいろな体験ができました。計画的にたくさんのパウンドケーキを作ることの大変さ、おいしかったよと声をかけてくださったときのうれしさ、栄養研究サークルのパウンドケーキを楽しみにしてくださっている人の多さを実感しました。はじめは作るパウンドケーキの多さに圧倒されて、作り終わられるか不安になったり、伝統のパウンドケーキを作ることにプレッシャーを感じたりしました。しかし、実際に販売してみると「仁短のパウンドケーキおいしいよね」「毎年楽しみにしているよ」などと声をかけてくださる方

やたくさん買ってくださる方がいて、頑張って作ってよかったなと思いました。作っているときの不安も自分たちが販売することで払拭できましたし、買ってくださった人の反応を直接見ることができ、次も頑張って作ろうと思える活力になりました。

サークル活動を通して学んだことや体験は一生忘れないものになりました。



親子向けイベント「はらぺこあおむしらんど」

幼児教育学科 2回生 賞雅ゼミ(べんべんゼミチーム)

日時:令和元年12月1日(日) 13:00~16:00

会場:仁愛女子短期大学 F館

賞雅ゼミでは親子や家庭を対象とした卒業研究を行うことになったので、私たちは「親子の愛着関係」を研究テーマとして、親子を対象とした遊びのイベントを企画しました。保育実習や10月の学園祭「じんあいこどものくに」での経験も踏まえながら、どんな遊びをするか考え、全体を子どもたちの大好きな絵本「はらぺこあおむし」のイメージで構成することにしました。イベント開催前は、遅くまで学校に残って準備をしました。

当日は、子ども60名、大人40名程がご来場し、子どもたちは輪投げ、的当て、新聞紙プールの宝探し、手遊びなどを楽しんでくれました。保護者の方同士、打ち解けて談笑する様子も見られました。終了時刻になっても帰りがたらない子どもがいて、保護者の方からは「毎月開催してほしい」

との声もありました。アンケートには「あんなにたくさんの新聞紙の中に入って、子どもたちは大興奮でした」「ほど良いスペースや遊びに、親子で楽しめました」「あおむしの装飾や、危険箇所への配慮など環境までしっかり整えられていた」「学生さんがニコニコで対応してくださって、とてもありがたかったです」などの感想をいただきました。

この日は、折に触れて親と視線を交わし合いながら遊びを楽しむ子どもの姿を見ることができました。「愛着をもとに遊びに向かう」ということを改めて学ぶことができたと思います。



じんあいこどものくに

幼児教育学科

日時:令和元年10月19日(土) 9:30~15:30

会場:仁愛女子短期大学 E館

仁愛女子短期大学幼児教育学科では、「仁短祭」において子ども向けのアトラクションを集めた「じんあいこどものくに」を開催しています。「子どもたちは楽しんでくれるだろうか・・・」「安全面は大丈夫かな。」と授業や実習で学んだことを活かしながら、クラス毎に取り組みました。各クラスの内容は次の通りです。

- 1-A ドリームバルーンランド
- 1-B 動物園を作ろう!
- 1-C ハロウィンのおぼけやしき
- 2-A キッズニア ～おしごとしてみよう～
- 2-B それいけ!ちびっこアイランド
- 2-C 劇「大きなパプリカ」

当日は雨にもかかわらず、たくさんの来場者があり、子どもたちの元気な声がE館に響きました。



〈学生の感想〉

● 幼児教育学科 1 回生 近藤 珠璃亜

私たちのクラスは風船やボールを使って「バルーンランド」をしました。事前にボールプールで使う景品の折り紙をみんなで折ったり、子どもたちが喜んでくれそうなかわいい風船を選び膨らましたりしました。時間がない中で準備をすることは大変でしたが、当日の楽しそうな子どもの様子を見て不安だったことや大変だったことを忘れるくらいで、とても嬉しくなりました。また、楽しむ子どもの写真を撮ったり子どもと一緒に遊んだりする保護者の方々の姿も見ることができ、私たちも温かい気持ちになりました。

● 幼児教育学科 2 回生 坂井 愛彩

私は、実行委員長を努めさせていただきました。当日までに準備すること、当日の流れなどを先生とよく話し合い、限りある実行委員会の中で計画的に活動を進めました。準備の段階では、実行委員長としての準備の他に、クラスの活動の準備もありとても大変でした。しかし、当日それぞれのクラスで遊びを楽しんでいる子どもたちをみて、とてもやりがいを感じました。また、実行委員長として、クラスの代表として活動をし、やり遂げることが出来たということが、自分の自信になりました。



学生のボランティア活動報告

英語サークル

森田地区児童館における英語教室

生活科学学科 生活情報専攻 1回生 西 千遥

私たちは、2019年8月8、19、21、23日に英語サークル活動の一環として森田地区にある全5か所の児童館で英語教室を行いました。内容は「世界のあそび」をテーマとし、アメリカの「ダックダックグース」、「ホットポテト」、ネパールの「フィッシュキャッチ」、スウェーデンの「クップ」という4つのあそびを準備しました。

児童館で最初に行ったのは、サークルのみんなで協力して制作した世界地図を用いてのアメリカ、ネパール、スウェーデンの場所の紹介です。次にフィッシュキャッチを行いました。これは指を使うあそびだったので、五本指それぞれの英語を紹介しました。次にホットポテトです。ボールを熱いジャガイモに見立てて回していくというあそびで、回す時に果物の名前を英語で言うというルールを設けました。次にダックダックグースを行いました。日本のハンカチ落としのようなものです。最後にクップを行いました。クップは元々木片を使って行うあそびなのですが、安全面を考慮して新聞紙や折り紙で木片に見立てた小道具を製作し、子どもたちに使ってもらいました。これらのあそびを通して、子どもたちに他国の文化に触れてもらうことができました。楽しそうに遊びながら英語を話してくれてとても嬉しかったです。

今回、子どもたちに楽しんでもらうにはどのようにすれば良いかを考えて行動しました。このように相手の立場に立つて物事を考えるという視点はとても大切なことだと思います。



パソコンボランティアサークル

生活科学学科 生活情報専攻 2回生/サークル長 中出 愛美

パソコンボランティアサークル（以下、パソボラ）は、鯖江市社会福祉協議会鳥羽事業所「なかま」にて、月に1回程度のペースで「障がい者のためのパソコン相談会」を主催する等の活動をしています。

自分がパソボラに所属したきっかけは3つあります。一つ目は、1回生の終わりごろに、田中先生から声をかけていただいたからです。二つ目は、パソボラの活動に興味を持ったからです。三つ目は、学生のうちにできることは何でも行いたいと思ったからです。

パソボラを始めたころは、相手になにをどのようにしたらよいのか、どこまで相手に手を差し伸べたらよいのかなど、戸惑いの連続でした。パソボラの活動をしていくうちに様々なことに対して理解を深めることができました。例えば、相談者への接し方・話し方・教え方です。また、パソコンの操作の仕方などを深く学ぶことができました。

社会人になると様々な方と接する機会が増えると思いますが、学生のうちに障がい者の方に接することができて良かったです。いろいろな障がいや考えをお持ちの方との関わりかたを深く学ぶことができました。

パソボラを通じて、小さなことかもしれませんが、社会貢献活動ができたと考えています。また、このサークルに所属することにより、自分自身の成長を感じ、自信につながりました。パソボラでの経験を活かして、これからもこのような活動を行っていきたいです。ありがとうございました。

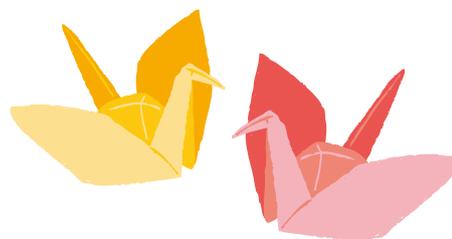
折り紙サークル

幼児教育学科 2回生/サークル長 谷口 渚

こんにちは。我ら折り紙サークルは、お昼休みに集まり、楽しくおしゃべりをしたり歌を歌ったりしながら活動を行っています。主な活動としては、折り紙で壁面を作り、病気などで外へ出られない子どもたちが様々な季節を感じられるように、季節の壁面作品を病院へと送っています。また、病院に送るものと同じ作品をもう一つ心を込めて作り、図書館にも寄贈しました。私たちは、作品を作るときにひと工夫しています。例えば、雲を綿で表現したり立体の折り紙を作ったりすることで、より一層実物に近づけようと頑張りました。

また、壁面づくり以外に、ボランティアにも参加しています。夏休み期間に、森田公民館で、地域の子どもたちやお年寄りの方々に折り紙を教えるという活動を行いました。普段は「教わる」立場である私たちにとって、このボランティアは「教える」ことの大変さを実感し学ぶことのできる良い機会となりました。

折り紙サークルの活動を通して、「折り紙の知識」だけでなく、「期日までに終わらせる重要性」を身に染みて感じ、「仲間と団結して何かをする大切さ」、そして何よりも「誰かに喜んでほしい」という気持ちが芽生えました。このような折り紙サークルでの経験は、社会に出てからも役に立つとても素敵なものです。



令和元年度
管理栄養士国家試験対策リカレント講座

	開講日	教 科	講 師 (敬称略)	参加人数
第1回	9月12日(木)	食べ物と健康(調理学)	谷 洋子	11
第2回	9月19日(木)	公衆栄養学	牧野みゆき	9
第3回	9月26日(木)	栄養教育論	牧野みゆき	10
第4回	10月 3日(木)	食べ物と健康(食品学)	小林 恭一	11
第5回	10月12日(土)	◇模擬試験	牧野みゆき	8
第6回	10月17日(木)	食べ物と健康(食品衛生学)	小林 恭一	10
第7回	10月24日(木)	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち(生化学)	谷 政八	10
第8回	11月 7日(木)	社会・環境と健康	出口 洋二	11
第9回	11月14日(木)	基礎栄養学	高木 康之	10
第10回	11月21日(木)	応用栄養学	牧野みゆき	10
第11回	11月28日(木)	給食経営管理概論	牧野みゆき	9
第12回	11月30日(土)	◇模擬試験	牧野みゆき	12
第13回	12月 5日(木)	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち(解剖生理学)	齋藤 正一	9
第14回	12月19日(木)	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち(病理学)	齋藤 正一	9
第15回	1月16日(木)	臨床栄養学(診断)	齋藤 正一	9
第16回	1月25日(土)	◇模擬試験	牧野みゆき	11

令和元年度
公開講座開催一覧

Microsoft Excel講座

内 容	Excel2016の基本的な操作方法を学習し、表やグラフなどを作成します。
開催日時	2019年9月1日(日) 9:00～16:00
講 師	本学 生活科学学科 生活情報専攻 准教授 平塚紘一郎
会 場	仁愛女子短期大学 C108 (パソコン演習室)
参加人数	26人

Microsoft Word講座

内 容	Word2016の基本的な操作方法を学習し、文書の入力、書式の設定、図表の挿入方法等について学びます。
開催日時	2019年9月8日(日) 9:00～16:00
講 師	本学 生活科学学科 生活情報専攻 准教授 平塚紘一郎
会 場	仁愛女子短期大学 C108 (パソコン演習室)
参加人数	24人

食育講座 ～初めてのアイシングクッキー～

内 容	作ってみたいけど、難しそうないメージがあるアイシングクッキー。今回は、お月見をイメージして、クッキーの上に描くように、オリジナルのアイシングクッキーと一緒に作りましょう！
開催日時	2019年9月14日(土) 13:00～15:00
講 師	本学 生活科学学科 食物栄養専攻 講師 森 恵見
会 場	仁愛女子短期大学 C115 (調理実習室)
参加人数	14組19人

食育講座 ～初めての練り切り講座～

内 容	和菓子の中でも上生菓子と呼ばれる「練り切り」。実は可愛くデコレーションできます。可愛くて食べるのがもったいないくらいです。季節に応じた可愛い練り切りを、一から作ってみませんか。工作みたいで楽しいですよ。
開催日時	2019年10月5日(土) 10:00～12:00
講 師	本学 生活科学学科 食物栄養専攻 講師 森 恵見、JSA 練り切りアート認定講師 森忠栄美氏
会 場	仁愛女子短期大学 C115 (調理実習室)
参加人数	13組20人

食育講座 ～親子でデコレーションケーキづくり～

内 容	おうちで一緒に、ケーキを作りたいけど、準備が…とまっているお母さん。子ども用の包丁など短大の広い調理室を使って、親子でケーキをデコレーションしてみませんか。フルーツなど飾り付けをして世界で一つだけのクリスマスケーキを作りましょう！
開催日時	2019年12月22日(日) 10:00～12:00
講 師	本学 生活科学学科 食物栄養専攻 講師 森 恵見
会 場	仁愛女子短期大学 C115 (調理実習室)
参加人数	66人 (子ども39人・保護者27人)

じんたん子育てサークル

内 容	「はじめての子育て、不安だなあ…」 「周りの子と比べると成長がゆっくりなのかしら…」 「うちの子、なんだか落ち着きがないわ…」 など、子育てのちょっとした悩み、子どもの成長で気になることなど、幼児教育・保育の専門家に相談してみませんか？ 日頃の子育てについて、同じくらいの年頃の子どもを持つ保護者同士で共有し、幼児教育学科の学生と子どもたちが遊ぶ様子を見ながら成長過程の理解を深めましょう。	
講 師	本学 幼児教育学科 講師 中尾繁史	
会 場	仁愛女子短期大学 F102演習室	
第1回	開催日時	2019年8月8日(木) 9:30～11:00
	参加対象	小学生とその保護者(兄弟も参加可能)
	参加人数	1組(子ども2人・保護者1人)
第2回	開催日時	2019年9月28日(土) 9:30～11:00
	参加対象	3歳児～5歳児とその保護者(兄弟も参加可能)
	参加人数	0組
第3回	開催日時	2019年9月28日(土) 13:30～15:00
	参加対象	0歳児～2歳児とその保護者(兄弟も参加可能)
	参加人数	0組

幼教ホームカミングデー

内 容	幼児教育学科の教員と卒業生での手遊び講習会や近況報告など
開催日時	2019年10月19日(土) 14:00～15:30
会 場	仁愛女子短期大学 C323
参加対象	平成22年3月～平成31年3月の幼児教育学科卒業生
参加人数	25人

仁短CAMP COLLEGE VOL.1

内 容	本学の建学の精神でもある『仁愛兼濟』に基づき、相互の親睦を図り、他への思いやりや、人に喜ばれる喜び、取り組む力をキャンプの実践を通して学びます。体験活動とレクチャーを組み合わせた講座です。参加者の皆さんと相互に交流しながら、キャンプ場での火の使い方やテントの張り方などを楽しく学びます。簡単チーズドッグやいろいろな燻製も作ります。
開催日時	2019年7月20日(土) 9:00～13:00
講 師	本学 総合学務センター 山田浩隆 【協力 福井県キャンプ協会】
会 場	仁愛女子短期大学
参加人数	11組29人(子ども18人・保護者11人)

人生は楽しいもの？ 苦しいもの？ -お釈迦様のことばに学ぶ-

内 容	『人生楽ありや苦もあるさ』という歌があるように、私たちの人生には楽と苦の両方があり、苦しさがあってはじめて楽しさを感じることができる」と、このように考えている人が多いのではないのでしょうか？ それでは、お釈迦様は楽しさ・苦しさについてどのように説かれているのか、一緒に考えていきたいと思います。
開催日時	2019年10月5日(土) 14:00～15:30
講 師	本学 幼児教育学科 准教授 香月 拓
会 場	仁愛女子短期大学 C421
参加人数	44人

親子のための虹色コンサート ～ジンタン、タンタタン♪～

内 容	ピアノの演奏を聴いたり、音楽にあわせて体を動かしたり、親子で楽しい時間を過ごしましょう！ ジンタンでお待ちしています♪
開催日時	2019年11月3日(日) 10:30～11:30
講 師	本学 幼児教育学科 教授 木下由香
会 場	仁愛女子短期大学 F102演習室
参加人数	7組22人(子ども10人・保護者12人)

AOSSA子ども家庭センター・子育て支援室開催【子育て講座】

第1回	講座名	えいごであそぼう！
	内 容	パパ・ママ・おじいちゃん・おばあちゃんと一緒に、英語の歌やゲームを楽しみましょう♪
	開催日時	2019年5月25日(土) 10:30～11:30
	講 師	本学 生活科学学科 生活情報専攻 准教授 野本尚美
	参加人数	31組(子ども39人・保護者36人)
第2回	講座名	いろんな音を楽しもう♪
	内 容	楽器を触ってみたり、音楽にあわせて鳴らしてみたり、親子で音楽の楽しさに触れてみましょう♪ みんなでひとつになってみましょう！
	開催日時	2019年10月3日(木) 10:30～11:15
	講 師	本学 幼児教育学科 教授 木下由香
	参加人数	25組(子ども25人・保護者26人)
第3回	講座名	えいごであそぼう！
	内 容	パパ・ママ・おじいちゃん・おばあちゃんと一緒に、英語の歌やゲームを楽しみましょう♪
	開催日時	2019年11月16日(土) 10:30～11:30
	講 師	本学 生活科学学科 生活情報専攻 准教授 野本尚美
	参加人数	21組(子ども26人・保護者24人)
第4回	講座名	ミニコンサートとお楽しみ会♪
	内 容	わらべうたを中心に、音楽にあわせて親子のふれあいを楽しみましょう♪
	開催日時	2019年12月4日(水) 10:30～12:00
	講 師	本学 幼児教育学科 非常勤講師 坂本流美
	参加人数	49組(子ども54人・保護者55人)

教員の地域活動一覧

生活科学学科

(専攻別・五十音順)

専門分野	氏名	講演や講座のテーマ・内容など
生活デザイン専攻	都市計画 まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ● 広域避難者支援の必要性と課題 ● 先進事例からまちづくりのココロを学ぶ ● わが町の活性化計画をより魅力的にする ● やねだんから学ぶまちづくり8ヶ条 ● 里山坂口での地域づくり ● 東日本大震災に見る地域の力～遠野からの報告～ ● 里山文化交流センターのより良い施設運営のために ● 夢ある国高のまちづくり～これからどう取り組むべきか? ● 地域を魅力的に人を元気にする プロジェクトづくりのスズメ ● みんなで創る笑顔あふれる今富～自分ごとで考え、協働するまちづくり～ ● これからのまちづくり～住民とNPO、協働～ ● 人と地域をつなげる公民館を目指して ● 今富地区まちづくり計画検討ワークショップ ● やねだんから学ぶまちづくりの流儀 ● 歩いて暮らせるまちづくり
	グラフィックデザイン ビジュアルコミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ● デザイン研修／基礎コース デザイン基礎コースの講師 ● 屋外広告物講習会(屋外広告業の経営者および従事者、管理者へのデザイン講習) ● 福井県高校総合文化祭 美術・工芸部門(美術部高校生や美術関連教員に向けた講演会) ● 高度技術者招聘事業(特別授業開講) ● ふくふくベジファースト応援事業「ベジファースト/ロゴ・ポスターデザイン」 ● ふくいサラダニンジンプロジェクト「新種ニンジンのネーミング企画・ロゴマークデザイン」
	デザイン	<ul style="list-style-type: none"> ● NPO法人SDwaveでの活動(デザインで社会貢献を目指すNPO団体として鯖江市で活動) ● メガメガ・ウルウルのはめはめLINEスタンプ40種類をデザイン ● メガメガ・ウルウルのはめはめゴム印のデザイン ● メガメガ・ウルウルのLINEスタンプ40種類をデザイン ● 鯖江市が新たに市の動物としたレッサーパンダシンボルデザインの使用マニュアル作成 ● どうぶどーナツのパッケージにメガウルを使用したステッカーデザイン
	テキスタイルデザイン ファッションデザイン	<ul style="list-style-type: none"> ● ファッションショーの実施 ● 染め物ワークショップ ● ファッション小物制作ワークショップ ● 企業連携テキスタイル商品企画 ● テキスタイルデザイン図案制作
生活情報専攻	コミュニケーション マーケティング経営	<ul style="list-style-type: none"> ● 効果的なプレゼンテーション手法について ● 地域におけるマーケティングのあり方について ● ソーシャルメディアとビジネスの活用 ● 地域ビジネス、企業等におけるマネジメント ● 企画立案、広報手段について ● コミュニケーションのあり方 ● キャリアデザイン、学びと学習環境等
	教育学 学習科学	<ul style="list-style-type: none"> ● 保育者のためのパソコン教室 ● eポートフォリオ活用の研修 ● 幼稚園における視覚教育研修 ● アクティブラーニングのための授業設計の研修
	英語教育 第二言語習得論	<ul style="list-style-type: none"> ● 幼児向け英語教室 ● 小学生向け英語教室 ● 「洋楽で英語を学ぼう」
食物栄養専攻	食品学 食品加工学 農産製造学 応用微生物学	<ul style="list-style-type: none"> ● 発酵食品と微生物 ● 奥越特産サイモについて ● ふくいの加工食品あれこれ ● 永く守り、受け継ぎたい伝統の福井野菜 ● 加工食品の知識と視る目を養う ● ジャム作りの基礎 ● 福井県農産物の加工技術・食品開発 ● 福井ウメの機能成分解析と特長を活かした利用加工 ● 野菜の栄養・機能性成分と機能性表示食品 ● 「福井梅」の歴史、栄養、機能性、加工利用、研究開発事例 ● 「自然は美味しい?!～発酵食品と食品添加物の話～」 ● 県産食材の栄養・機能成分と加工 ● 野菜の栄養・機能成分について ● 食品添加物の話 ● 食品加工の基本 ● 6次産業化のための普及活動のポイント ● 6次化に取組む時に考えなければならないこと ● リカレント講座「食品学」「食品衛生学」
	生物科学 社会医学	<ul style="list-style-type: none"> ● 管理栄養士国家試験対策リカレント講座
	公衆栄養学	<ul style="list-style-type: none"> ● 働く女性の健康管理～食事の工夫～ ● 食と健康～生活習慣病を防ぐ食生活～ ● 食と健康～健康寿命を延ばす食事～ ● 食と健康～生活習慣病予防で健康寿命を延ばそう～ ● 健康は栄養管理から～低栄養のキケン～ ● 「日本人の食事摂取基準2015」を活用した児童福祉施設における栄養管理 ● リカレント講座「栄養教育論」「公衆栄養学」「応用栄養学」 ● 女性の健康と食生活 ● 食べことは生きること～食育のすすめ～ ● あなたの食卓から子どもの未来を考える
調理科学	<ul style="list-style-type: none"> ● 親子で作るデコレーションケーキ ● 親子クッキング ● 食育講座(調理実習) ● 離乳食教室 	

専門分野	氏名	講演や講座のテーマ・内容など
健康体力学 測定評価学	内田 雄	<ul style="list-style-type: none"> ● 児童厚生 指導員研修会「ゲーム・運動遊び」 ● 保育者ワークショップ「昔遊びを楽しもう」 ● 「小学校1,2,3年生が楽しめる室内遊び、昔遊び」 ● 「ゲーム・昔遊び」
幼児教育・保育	江端 佳代	<ul style="list-style-type: none"> ● 「小学校入学を前に」子育てワンポイントアドバイス ● 「子どもの心を惹きつける簡単マジックに挑戦」 ● 「おじいちゃん、おばあちゃんのための孫育て講座」 ● 「全体的な計画の編成と保育内容」 ● 「保育所児童保育要録について」 ● 「遊びの中の学びをみとる」 <ul style="list-style-type: none"> ● 「新保育要録作成のポイントについて」 ● 「保幼小接続について」 ● 子育て講座
発達心理学 実験心理学	乙部 貴幸	<ul style="list-style-type: none"> ● 乳幼児の発達(脳と行動) ● 自己制御のメカニズムと発達 ● 行動と遺伝
仏教学 仏教保育学 おもちゃ学	香月 拓	<ul style="list-style-type: none"> ● メンタルケア・スペシャリスト養成講座「死生論I」 ● 自分とは何か—お釈迦様のことばに学ぶ— ● 人生は楽しいもの? 苦しいもの?—お釈迦様のことばに学ぶ— ● 子育て講座「おもちゃで育む親子のふれあい」 ● 保育者ワークショップ「いのち」のはたらき ● 保育者ワークショップ「身近な素材でおもちゃをつくろう」 ● 新人保育者スキルアップ「新聞紙で遊ぼう」 ● ふくい総合学「ふくいの浄土真宗」 <ul style="list-style-type: none"> ● 音楽文化講座「声明を聴く」 ● 「こどもの成長とおもちゃあそび」
音楽	河野 久寿	<ul style="list-style-type: none"> ● 文化に親しむ【音楽文化講座】第3回「コンピュータによる音楽の作り方」
音楽教育 ピアノ教育 ピアノ演奏	木下 由香	<ul style="list-style-type: none"> ● 文化に親しむ「音楽文化講座 ハンガリーの音楽教育」 ● 保育者ワークショップ「子どものための音楽遊び〜ピアノと戯れよう〜」 ● 親子のための虹色コンサート in 大野「手作り楽器ワークショップとミニコンサート」 ● ポルタDe'ファツィオリ「ピアノふれあい体験」 ● 聴いて、見て、動いて楽しむ10歳からのクラシックコンサート ● ピアノ公開講座 ● いしかわ・金沢 風と緑の楽都音楽祭 <ul style="list-style-type: none"> ● ふるさと子どもコンサート、出張音楽堂 ● 親子のための虹色コンサート in AOSSA
幼児造形指導法 洋画制作 洋画原書翻訳 明治期日本における洋画の受容	重村 幹夫	<ul style="list-style-type: none"> ● 子どもの絵 大人の絵 ● 明治前期の油絵技法材料について ● 造形を通した子どもとの関わり方 ● 小学校低学年児童が作って遊べる遊具 ● 幼児の造形や既習能力に応じた造形活動のあり方について ● 幼児の主体的な造形活動のために「造形遊び」を中心に <ul style="list-style-type: none"> ● 「かたち」発見 ● クレヨンで動物を描きましょう ● 幼児造形の指導法
保育 子ども家庭福祉	賞雅さや子	<ul style="list-style-type: none"> ● 公開保育「からだ育て一意欲と自信につながる生活・遊び」 ● 保育士等キャリアアップ研修「保護者支援・子育て支援」 ● 保育従事者研修会「対話する保育」 ● 「共に生きるために—関係発達の視点」 ● 児童厚生指導員研修「集団援助活動」 ● 「ともに生きる保育」 <ul style="list-style-type: none"> ● 「日本の保育・世界の保育」 ● 主任保育士研修「相談援助」 ● 子育て支援員研修
児童発達支援 特別支援教育	中尾 繁史	<ul style="list-style-type: none"> ● 「気になる子への支援教材の作り方」 ● 「情報共有のための観察と記録の視点」 <ul style="list-style-type: none"> ● 「子どもの『あのね』を引き出す関わり方」 ● 「『気になる子』への対応」
日本文学 児童文学 国語科教育	前田 敬子	<ul style="list-style-type: none"> ● 発見 百人一首の世界 ● 保幼小接続講座・絵本の世界 ● 伝わる文章の書き方 ● 保育者ワークショップ 書くこと、読むことの保幼小連携 <ul style="list-style-type: none"> ● 恋する山川登美子 ● 歌う金子みすゞ
保育学・教育学 保育・教育思想史 保育・教育方法学 保育者論	増田 翼	<ul style="list-style-type: none"> ● 新保育所保育指針について ● 保育における環境構成 ● 指導要録 保育要録について ● 5歳児の育ちと小学校への接続について ● 生活発表会について ● 歌う楽しさの原点にあるものは? ● 躰が変われば子どもも変わる? ● 保育者だからできること 保育者にしかできないこと ● 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)」の視点について ● 外国籍の子どもや保護者は何に困っているのか ● スマホ育児 ちょっとだけでも分かっておきたいこと <ul style="list-style-type: none"> ● 保育の専門性について ● 「遊び」とは何か ● 4歳児の育ちについて ● 連絡帳の書き方 ● 保育に活かす音の遊び ● 気がかりな子を包み込む集団づくり ● 主体的に学ぶとは
教育課程論 保育内容	松川 恵子	<ul style="list-style-type: none"> ● 子どもの育ち一人とかがわる力について— ● 中堅(リーダー)職員としての役割・行動 ● 幼児期における道徳性や規範意識の芽生えについて ● 子育て支援は「親育て」から ~"Nobody's Perfect"子どもを育てて親も育つ~ <ul style="list-style-type: none"> ● 主任保育士の役割と責務 ● 質の高い保育を目指して

令和元年度
教員免許状更新講習

本学が、令和元年度に実施した教員免許状更新講習「全ての受講者が受講する領域(必修領域)」・「受講者が所有する免許状の種類、勤務する学校の種類又は教育職員としての経験に応じ、選択して受講する領域(選択必修領域)」・「受講者が任意に選択して受講する領域(選択領域)」の概要は次の通りです。

【前期開講】

必修講習 ①	講習名	教育の最新事情
	認定番号	平31-35141-100200号
	講師	乙部 貴幸 (本学 幼児教育学科 准教授) 賞雅 さや子 (本学 幼児教育学科 准教授) 増田 翼 (本学 幼児教育学科 准教授)
	講習の 目標・ねらい	「国の教育政策や世界の教育の動向」「教員としての子ども観、教育観等についての省察」「子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見」「子どもの生活の変化を踏まえた課題」の4つの事項について、教員に求められる最新の知識・技能の修得と今日的な教育課題についての理解を深めることを目指す。
	講習会場	仁愛女子短期大学
	日程	2019年7月14日(日) 9:00~16:10
	受講者数	244人

必修講習 ②	講習名	教育の最新事情
	認定番号	平31-35141-100201号
	講師	乙部 貴幸 (本学 幼児教育学科 准教授) 賞雅 さや子 (本学 幼児教育学科 准教授) 増田 翼 (本学 幼児教育学科 准教授)
	講習の 目標・ねらい	「国の教育政策や世界の教育の動向」「教員としての子ども観、教育観等についての省察」「子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見」「子どもの生活の変化を踏まえた課題」の4つの事項について、教員に求められる最新の知識・技能の修得と今日的な教育課題についての理解を深めることを目指す。
	講習会場	仁愛女子短期大学
	日程	2019年8月26日(月) 9:00~16:10
	受講者数	222人

選択必修講習 ①	講習名	教育の情報化(幼稚園編)
	認定番号	平31-35141-300264号
	講師	田中 洋一 (本学 生活科学学科 教授)
	講習の 目標・ねらい	主体的・対話的に思考力・判断力・表現力を活かして、幼稚園での「教育の情報化」に関する最新の知識・技能を学び、下記2点の到達を目指す。 ①情報倫理や情報セキュリティを理解し、幼稚園の情報セキュリティ・ポリシー(方針)を設計できる。 ②最新のICT活用例を理解し、多様な園児に合わせた視聴覚教育を設計できる。 また、本講習ではアクティブ・ラーニングとして特徴的な3つの手法(シナリオを用いたPBL、ワールドカフェ、知識構成型ジグソー法)を体験し、園での研修等に活用できることを目指す。
	講習会場	仁愛女子短期大学
	日程	2019年7月28日(日) 9:00~16:10
	受講者数	57人

選択必修講習②	講習名	幼小接続の現状と今後の課題
	認定番号	平31-35141-300265号
	講師	江端 佳代（本学 幼児教育学科 講師） ゲストスピーカー：寺下 紅美（福井県教育庁義務教育課 幼児教育支援グループ指導主事） ゲストスピーカー：小川真紀子（森田小学校教諭）
	講習の目標・ねらい	平成29年度に告示された「幼稚園教育要領」では、保幼小接続の必要性が、強化されている。本講座では、保幼小接続についての教員に求められる最新の知識の修得と今日的な教育課題についての理解を深めることを目指す。
	講習会場	仁愛女子短期大学
	日程	2019年8月9日(金) 9:00～16:10
	受講者数	226人

選択必修講習③	講習名	幼児期における英語教育
	認定番号	平31-35141-300266号
	講師	内藤 徹（本学 幼児教育学科 非常勤講師） 野本 尚美（本学 生活科学学科 准教授）
	講習の目標・ねらい	「外国語としての英語教育の理論」「幼児英語教育の実践演習」の2つの事項について、教員に求められる最新の知識・技能の修得と今日的な教育課題についての理解を深めることを目指す。
	講習会場	仁愛女子短期大学
	日程	2019年8月22日(木) 9:00～16:10
受講者数	101人	

選択必修講習④	講習名	幼稚園教育要領改訂の動向及び法令改正及び国の審議会の状況等
	認定番号	平31-35141-300267号
	講師	松川 恵子（本学 幼児教育学科 教授） ゲストスピーカー：青木美恵（福井県教育庁義務教育課 幼児教育支援グループ指導主事）
	講習の目標・ねらい	「幼稚園教育要領等の改訂」「法令改正及び国の審議会の状況等」の2つの事項について、教員に求められる最新の知識・技能の修得と今日的な教育課題についての理解を深めることを目指す。
	講習会場	仁愛女子短期大学
	日程	2019年8月27日(火) 9:00～16:10
受講者数	104人	

選択講習①	講習名	子どもの音楽的感性を育む実践指導
	認定番号	平31-35141-500710号
	講師	河野 久寿（本学 幼児教育学科 准教授） 木下 由香（本学 幼児教育学科 教授）
	講習の目標・ねらい	子どもたちの発達に応じた音楽表現活動の意義を理解し、自然な音楽活動を通して、伸びやかな音楽的感性を育成する実践的な指導について学ぶ。子どもたちの音楽的感性をより育むことを目的とした講習を、理論と実践の両面から行う。
	講習会場	仁愛女子短期大学
	日程	2019年7月21日(日) 9:00～16:10
受講者数	118人	

選択講習②	講習名	幼児と言葉
	認定番号	平31-35141-500711号
	講師	前田 敬子 (本学 幼児教育学科 教授)
	講習の目標・ねらい	物語や絵本を新たな角度から眺め、絵本とその対象年齢に関する理解や鑑賞力を深めたり、文字へのかかわりについて話し合ったりすることを通して、小学校への接続をふまえた、幼児教育段階の支援の在り方について理解を深め、保育をこれまで以上に工夫するようになる。 また、言葉に関する実践的な活動を通して、保育者自身が言葉の楽しさに気づき、言葉を大切に自ら表現を工夫するようになることを目標とする。
	講習会場	仁愛女子短期大学
	日程	2019年8月28日(水) 9:00～16:10
	受講者数	160人

選択講習③	講習名	子どもの発達理解
	認定番号	平31-35141-500712号
	講師	乙部 貴幸 (本学 幼児教育学科 准教授)
	講習の目標・ねらい	乳児期から幼児期にかけての基本的な発達の道筋とそのメカニズムについて理解することを目標とする。具体的には、発達心理学における基礎理論、科学的手法によって明らかにされてきた発達の諸相、発達検査などから得られる行動発達のマイルストーンについて学び、個々の子どもの発達を表面的なエピソードではなく、潜在的な機能の現れとして理解できるようになることを目指す。
	講習会場	仁愛女子短期大学
	日程	2019年8月29日(木) 9:00～16:10
受講者数	198人	

選択講習④	講習名	子どもの運動と食育
	認定番号	平31-35141-500713号
	講師	内田 雄 (本学 幼児教育学科 講師) 木内 貴子 (本学 生活科学学科 講師)
	講習の目標・ねらい	子どもの健康を「運動」と「食育」の面から学ぶことを目的とする。 「運動」では、子どもの運動遊びと体力の発達について学ぶとともに、体力測定の効果的な活用方法を学ぶ。 「食育」では、幼児期の間食の意味や最近増えている食物アレルギーや偏食などへの対応など具体的な食育の方法を学ぶ。
	講習会場	仁愛女子短期大学
	日程	2019年8月30日(金) 9:00～16:10
受講者数	223人	

選択講習⑤	講習名	仏教に見る子どもとの関わり
	認定番号	平31-35141-500714号
	講師	香月 拓 (本学 幼児教育学科 准教授)
	講習の目標・ねらい	釈尊の生涯と言葉について学ぶ。さらにその学びを通して、これまでの子どもとの関わりについて振り返りながら自己省察をする。また、仏教行事のあり方や意味についても学んでいく。
	講習会場	仁愛女子短期大学
	日程	2019年9月2日(月) 9:00～16:10
受講者数	128人	

選択講習⑥	講習名	発達障害・気がかりな子どもの理解と支援
	認定番号	平31-35141-500715号
	講師	中尾 繁史（本学 幼児教育学科 講師）
	講習の目標・ねらい	発達障害に関する基本的知識を整理するとともに、発達の気がかりな子どもに対する多角的な視点を持つことを目的とする。加えて、そのような子どもたちに対する支援方法にはどのようなものがあるか、それらを実際に応用するためにはどのような視点が必要かについて理解することも目的とする。
	講習会場	仁愛女子短期大学
	日程	2019年9月3日(火) 9:00～16:10
受講者数	223人	

選択講習⑦	講習名	幼児と人間関係
	認定番号	平31-35141-500716号
	講師	賞雅 さや子（本学 幼児教育学科 准教授） 江端 佳代（本学 幼児教育学科 講師）
	講習の目標・ねらい	予測不能な未来を生きる幼児に必要なとされる資質・能力の中で、人と関わる力の育ちに焦点を当てて理論的、実践的に考察する。前半で幼児と「人間関係」に関する現状と課題等を整理した後、後半の実践編では事例を通して人と関わる保育者の役割や援助の在り方などを具体的に学ぶ。
	講習会場	仁愛女子短期大学
	日程	2019年9月4日(水) 9:00～16:10
受講者数	149人	

選択講習⑧	講習名	幼児造形の指導法
	認定番号	平31-35141-500717号
	講師	重村 幹夫（本学 幼児教育学科 教授）
	講習の目標・ねらい	乳幼児の発達段階を踏まえた、造形表現に関する知識や技能を修得する。特に、材料や身体行為、環境に触発された造形表現を実践的に学ぶ。 このような学習を通して、保育者に求められる幼児造形の実践的な指導能力の向上を目指す。
	講習会場	仁愛女子短期大学
	日程	2019年9月5日(木) 9:00～16:10
受講者数	54人	

選択講習⑨	講習名	色彩と造形
	認定番号	平31-35141-500718号
	講師	橋本 洋子（本学 生活科学学科 講師） 前田 博子（本学 生活科学学科 准教授）
	講習の目標・ねらい	子どもの活動を色彩と造形表現の観点から、子どもの発達過程を踏まえた色彩知識と造形制作に至るまでの考え方を学習します。 色彩では、実際に色紙を選び組み合わせる色が持つ機能性を学び、子供に与える色の影響について考えます。また、ユニバーサルデザインの視点から、色の見え方の個人差を実際に体験します。 造形表現では、布や資材の特性を生かしたキャラクターをつくります。モノの形を何かに見立てながら制作し「考えること」の大切さと伝えることの本質を考察します。 これらの学習を通して、保育者に求められる基礎的な色彩感覚や技能、造形感覚の向上を目指します。
	講習会場	仁愛女子短期大学
	日程	2019年9月5日(木) 9:00～16:10
受講者数	90人	

【後期開講】

必修講習①	講習名	教育の最新事情
	認定番号	平31-35141-100202号
	講師	乙部 貴幸（本学 幼児教育学科 准教授） 賞雅 さや子（本学 幼児教育学科 准教授） 増田 翼（本学 幼児教育学科 准教授）
	講習の目標・ねらい	「国の教育政策や世界の教育の動向」「教員としての子ども観、教育観等についての省察」「子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見」「子どもの生活の変化を踏まえた課題」の4つの事項について、教員に求められる最新の知識・技能の修得と今日的な教育課題についての理解を深めることを目指す。
	講習会場	仁愛女子短期大学
	日程	2019年11月2日(土) 9:00～16:10
受講者数	65人	

選択必修講習①	講習名	安心安全な園づくりのために（危機管理上の課題と組織的対応の必要性）
	認定番号	平31-35141-300268号
	講師	増田 翼（本学 幼児教育学科 准教授）
	講習の目標・ねらい	目的は、園を取り巻く「危機管理上の課題」および「組織的対応の必要性」について「学校保健安全法」にも触れながら考察することである。具体的には、大規模災害に対する危機管理およびリスクマネジメントについて理解を深めるとともに、園での事故・ケガのリスクを軽減する方策について議論していきたい。また講習全体を通して、「安全安心な園づくり」のために保育者には何が求められるのか、についても考えていきたい。
	講習会場	仁愛女子短期大学
	日程	2019年11月3日(日) 9:00～16:10
受講者数	57人	

選択講習①	講習名	発達障害・気がかりな子どもの理解と支援
	認定番号	平31-35141-500720号
	講師	中尾 繁史（本学 幼児教育学科 講師）
	講習の目標・ねらい	発達障害に関する基本的知識を整理するとともに、発達の気がかりな子どもに対する多角的な視点を持つことを目的とする。加えて、そのような子どもたちに対する支援方法にはどのようなものがあるか、それらを実際に応用するためにはどのような視点が必要かについて理解することも目的とする。
	講習会場	仁愛女子短期大学
	日程	2019年12月1日(日) 9:00～16:10
受講者数	64人	

選択講習②	講習名	幼児造形の指導法
	認定番号	平31-35141-500721号
	講師	重村 幹夫（本学 幼児教育学科 教授）
	講習の目標・ねらい	乳幼児の発達段階を踏まえた、造形表現に関する知識や技能を修得する。特に、材料や身体行為、環境に触発された造形表現を実践的に学ぶ。 このような学習を通して、保育者に求められる幼児造形の実践的な指導能力の向上を目指す。
	講習会場	仁愛女子短期大学
	日程	2019年12月8日(日) 9:00～16:10
受講者数	28人	

選択講習 ③	講習名	保育におけるマネジメントとリーダーシップ
	認定番号	平31-35141-500719号
	講師	増田 翼 (本学 幼児教育学科 准教授)
	講習の 目標・ねらい	多様化・複雑化する保育現場の現状を踏まえたうえで、保育におけるマネジメントとリーダーシップの理論および意義・役割について理解することを目標とする。具体的には、講習を受講することで、①組織マネジメント、②他職種との協働・連携、③保育の質保証、④保育におけるリーダーシップ、などについて考察するための見方を獲得する。
	講習会場	仁愛女子短期大学
	日程	2019年12月8日(日) 9:00~16:10
	受講者数	28人

SOCIUS [ソシアス]
No.14

2020年5月30日 発行

仁愛女子短期大学 総合学務センター 入学・地域支援課

〒910-0124 福井市天池町43-1-1
TEL.0776-56-1133 FAX.0776-56-2922
E-mail jissen@jin-ai.ac.jp



仁愛女子短期大学

総合学務センター 入学・地域支援課